

STIEBEL ELTRON

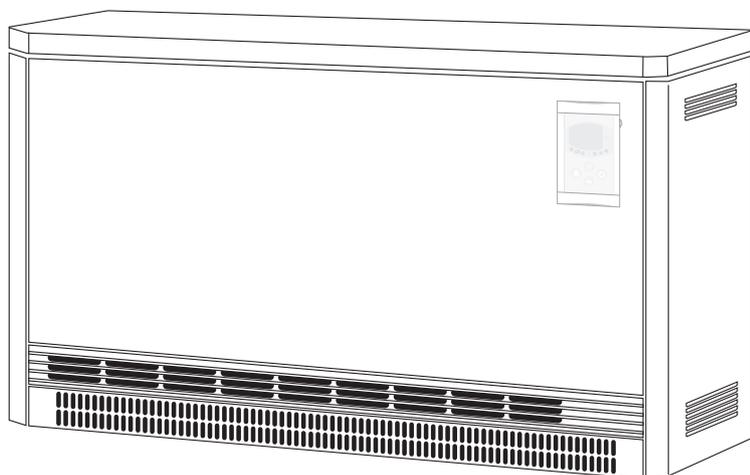
蓄熱式電気暖房器

取扱説明書

(取付説明書、保証書付)

品名……ローボーイ
WSP-Lシリーズ

型名…… ●WSP-350LJ
●WSP-500LJ
●WSP-350LJT
●WSP-500LJT



お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

- ご使用前にP.1「1.安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は、必ず保証書とともにいつでも見ることができるところに保管してください。

日本スティーベル株式会社

[目次]

取扱説明書

1. 安全上のご注意	1
2. 各部のなまえと機器の特長	3
2-1 各部のなまえ	3
2-2 機器の特長	4
3. 運転のしかた	5
3-1. 現在時刻と通電時間の設定	5
3-2. 蓄熱量の設定	7
3-3. お部屋の暖めかた	8
4. 日常の点検とお手入れ	10
4-1. 暖房シーズン前の準備	10
4-2. 暖房期間中のお掃除	11
5. 故障かな?と思ったら	12
6. 点検及び修理について	13
7. 仕様	14

取付説明書

1. 安全上のご注意	16
2. 各部のなまえ	19
3. 部品の確認	20
4. オプション(別売品)部品	20
5. 標準仕様と配線図	21
5-1. WSP-LJシリーズ	21
5-2. WSP-LJTシリーズ	22
6. 機器設置前の準備	23
6-1. 設置場所の確認	23
6-2. 電源配線の確認	23
6-3. シーズンセンサーへの配線	24
6-4. 外付けルームサーモ (オプション)の配線	26
7. 機器の設置	27
7-1. 背面固定金具の取り付け	27
7-2. 配線の接続	30
7-3. 機器の固定	32
7-4. 蓄熱体の組み込み	34
7-5. 機器外装の組み付け	36
7-6. タイマーセットの組み付け	40
8. 試運転の手順	42
保証書	45

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

 警告 誤った取扱いをしたときに、死亡、または重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意 誤った取扱いをしたときに、傷害、または家屋・家財等の損害に結びつくもの。
--	---

■ 本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

 禁止マーク してはいけないことを示します。
 注意マーク 注意することを示します。
 指示マーク 必ず行なうことを示します。

警告

禁止

-  絶対に改造はしないでください。
-  機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。
-  濡れた手で機器を操作しないでください。
-  機器を運転中、運転後は、機器表面や吹出グリルが熱くなっているので触らないでください。また、お子様が近寄らないようにしてください。
-  機器の上や機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管したり、使用したりしないでください。
-  機器に直接衣類等を置いて乾かしたりしないでください。
-  機器を正常に動作させるために、離隔距離の範囲内に物品を置かないでください。(離隔距離は、壁紙や棚、カーテン等の品質を保証する距離ではありません。)

	前面パネル	天板パネル	左面パネル	右面パネル
離隔距離	500mm以上	100mm以上	150mm以上	150mm以上

※カーテン等、全ての繊維類は、機器から150mm以上離してください。

指示

-  壁固定金具が正しく取り付けられ、機器がしっかりと壁面と床面に固定されていることを確かめてください。

-  震災等で万が一転倒した場合は、下記の項目を実施の上、日本スティーベル（株）に電話でご連絡ください。
- ①専用ブレーカを「切」（OFF）にしてください。
 - ②建物が揺れている間や、機器が傾いている間は機器に近づかないでください。
 - ③機器の上に落下物がある場合は、取り除いてください。
 - ④機器が熱い状態で転倒した場合は、機器の周りから床等に水を流してください。

 お子様や身体に障害がある人が操作する場合は、監督者の管理のもと、または安全管理者による適切な指導を受けた上でご使用ください。

注意

禁止

-  機器の上に物を置いたり、物を貼ったり、機器に荷重を掛けたりしないでください。
-  機器の隙間から、内部に物を入れないでください。
-  ファンモーターが故障し動いていない場合は、そのまま使用しないでください。

注意

 吸気グリルのフィルターを外す場合は、怪我をしないように気を付けてください。

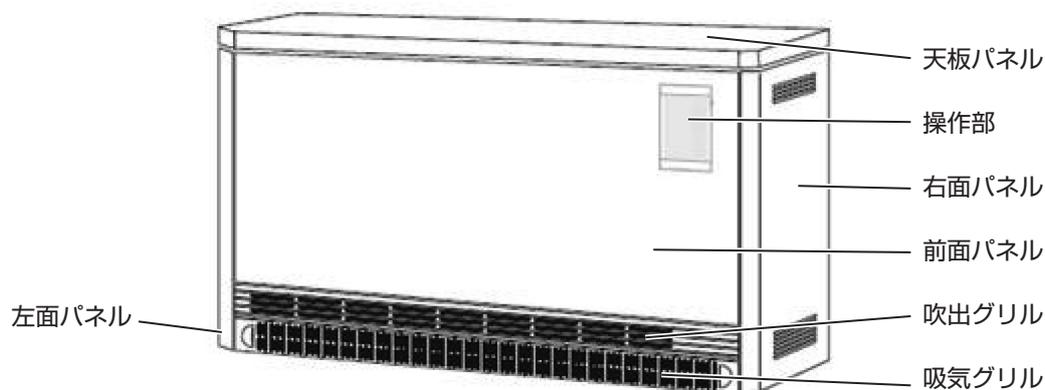
指示

-  蓄熱時間中は、翌日の蓄熱量が不足する可能性があるため、できるだけファンを停止してください。
-  機器を使用した場合、暖房の熱等で家具や、棚等の木質系素材が反る、割れる、変形する可能性があります。機器周辺には乾燥、熱に対する対策が施してあるものをご使用ください。
-  機器を使用した場合、熱により周囲が変色する可能性があります。機器周辺には、熱に対する対策が施してあるものをご使用ください。
-  吸気グリルにはフィルターが取り付けられています。フィルターが詰まると、故障の原因となりますので定期的に掃除をしてください。
-  機器の所有者が変わる場合には、必ず本取扱説明書を新しい所有者に引き継ぎ、保管できるようにしてください。
-  機器に異常が発生した場合は、ファンを停止し、専用ブレーカを「切」（OFF）にして日本スティーベル（株）に電話でご連絡ください。
-  機器の修理をご依頼の際は、必ず本取扱説明書に付属している保証書を修理業者にご提示ください。
-  機器の移設を行なう場合は、日本スティーベル(株)にご相談ください。

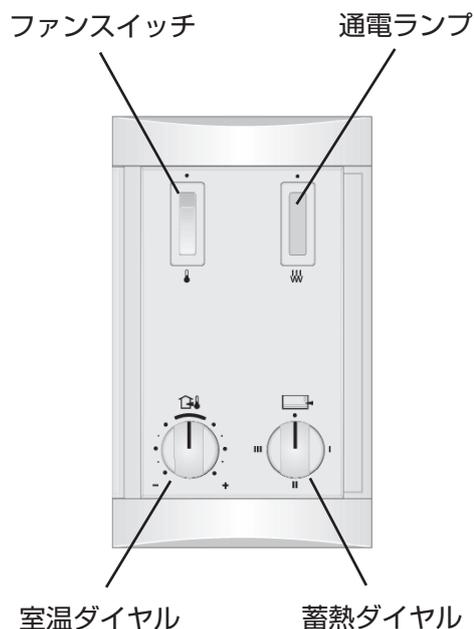
2. 各部のなまえと機器の特徴

2-1. 各部のなまえ

2-1-1. 機器外観



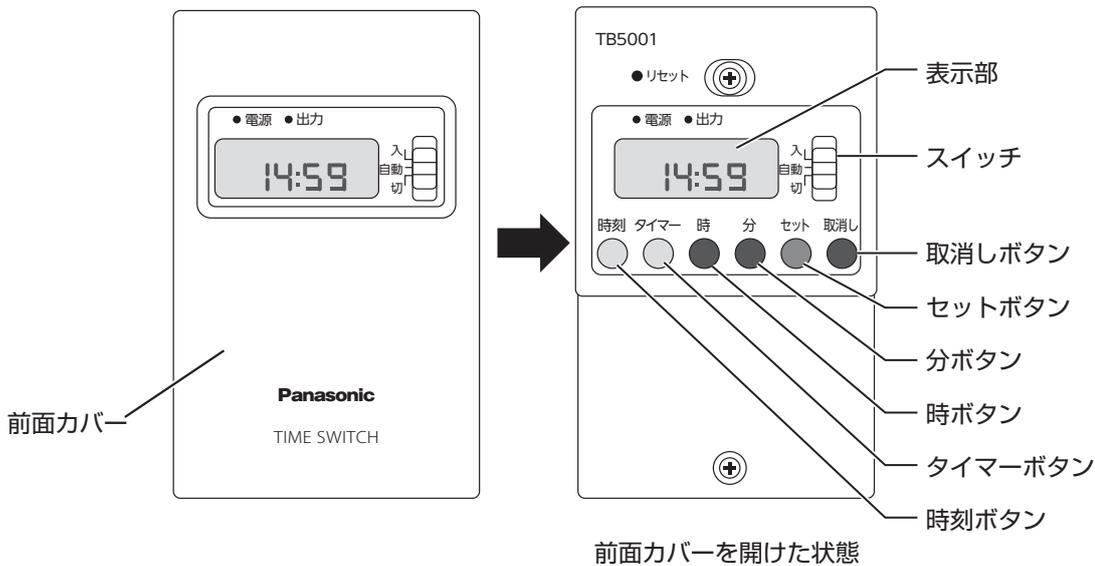
2-1-2. 機器操作部詳細



	表示マーク	表示内容
ファンスイッチ		ファンのON/OFFを切り替えます。 ファンがON時に点灯します。
通電ランプ		ヒーターに通電した場合に点灯します。
室温ダイヤル		ファンON時の室温を設定します。
蓄熱ダイヤル		蓄熱量を設定します

2-1-3. タイマー詳細

○WSP-LJTシリーズのみ



2-2. 機器の特長

蓄熱式電気暖房器WSP-Lシリーズ（本文中では、「機器」と表記）は、電気代が割安な時間帯の間に内部の蓄熱体に熱を蓄え、それ以外の時間帯は、蓄えた熱を放熱することにより部屋全体を暖める機器です。火を使わないので、水蒸気が発生せず結露や灯油臭等がありません。アレルギーの原因となるカビや、ダニの発生を抑え、家にも人にも優しい暖かさを提供します。

主に機器からの自然放熱でお部屋を暖めますが、機器下部にある独自の静音設計のクロスフローファンによる送風により放熱を促進させることができます。

深夜電力契約対応のWSP-LJシリーズと、時間帯別電灯契約対応のWSP-LJTシリーズがあります。

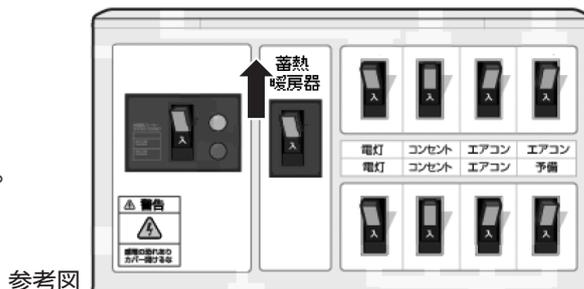
3. 運転のしかた

3-1. 現在時刻と通電時間の設定

○以下3-1項は、WSP-LJTシリーズをご使用のお客様のみ行なう必要があります。

3-1-1. 現在時刻の設定

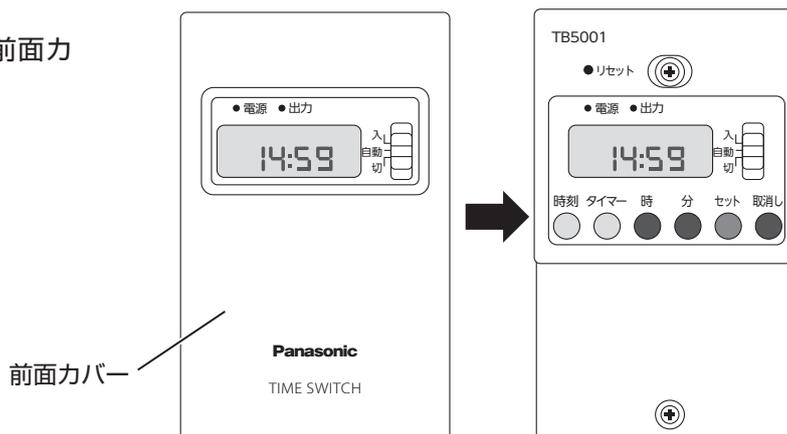
- ①機器の専用ブレーカを「入」(ON)にします。
- ②タイマーのディスプレイに表示が点灯することを確認します。



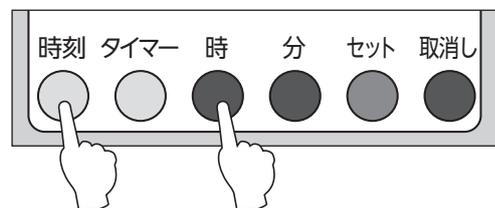
- ③タイマー表示部の現在時刻がずれていないこと、スイッチが「自動」になっていることを確認します。



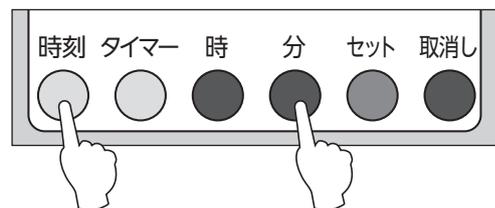
- ④現在時刻がずれている場合は、タイマーの前面カバーを手前に引いて外します。



- ⑤「時刻」ボタンを押しながら、「時」ボタンを押して、時間を合わせます。



- ⑥「時刻」ボタンを押しながら、「分」ボタンを押して、分を合わせます。



MEMO

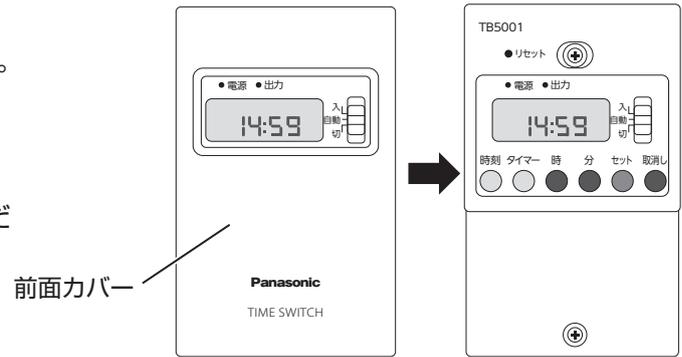
- ②～③の作業中、表示部には「時刻」という表示が点滅していることを確認してください。

3-1-2. 通電時間の設定

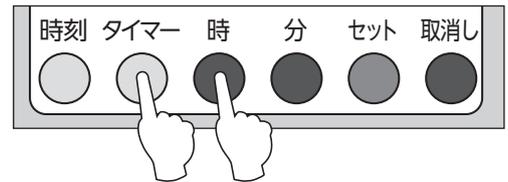
①外付けタイマーの前面カバーを手前に引いて外します。

MEMO

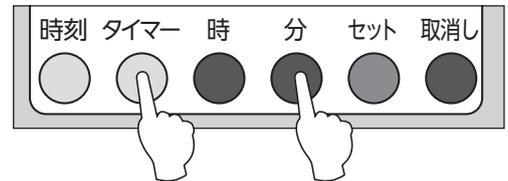
②～⑦の作業中は、「タイマー」ボタンを押し続けてください。



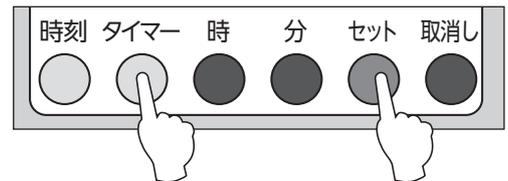
②「タイマー」ボタンを押し続けながら、「時」ボタンを押して、通電開始時間の時間を合わせます。



③「タイマー」ボタンを押し続けながら、「分」ボタンを押して、通電開始時間の分を合わせます。



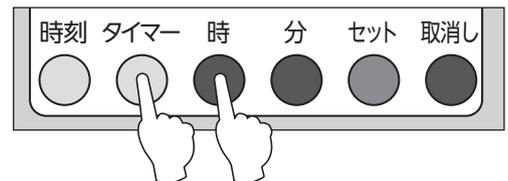
④「タイマー」ボタンを押し続けながら、「セット」ボタンを押して、変更を確定します。



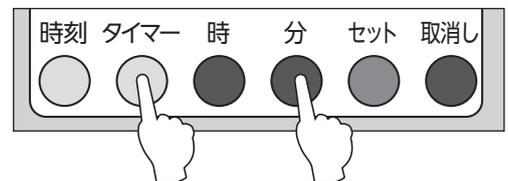
MEMO

①②～④の操作中、表示部には「ON」と「1」と表示され、「タイマー」という表示が点滅していることを確認してください。

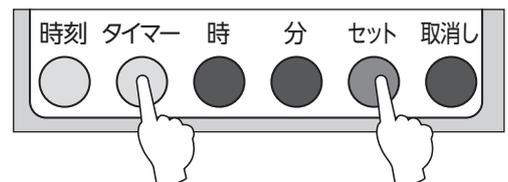
⑤「タイマー」ボタンを押し続けながら、「時」ボタンを押して、通電終了時間の時間を合わせます。



⑥「タイマー」ボタンを押し続けながら、「分」ボタンを押して、通電終了時間の分を合わせます。



⑦「タイマー」ボタンを押し続けながら、「セット」ボタンを押して、変更を確定します。



MEMO

①⑤～⑦の操作中、表示部には「OFF」と「1」と表示され、「タイマー」という表示が点滅していることを確認してください。

⑧表示部に「ON」と「2」と表示され、「タイマー」という表示が点滅した状態になった後、「タイマー」ボタンから指を離して設定を確定させます。

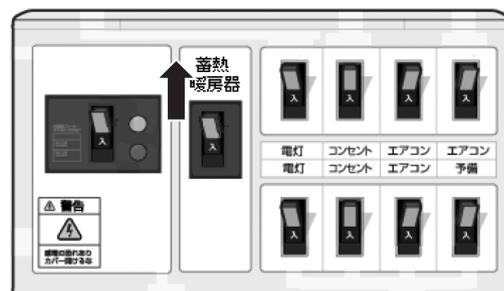
3-2. 蓄熱量の設定

シーズンセンサーをご利用の方は通常、蓄熱量を設定する必要はありません。

- ①機器の専用ブレーカを「入」(ON)にします。

MEMO

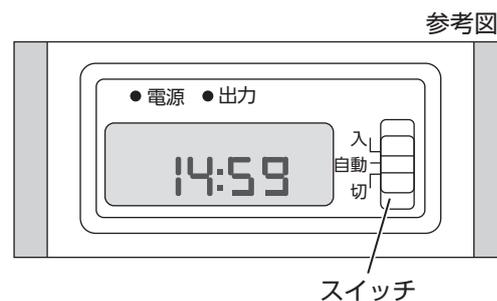
- ヒーター用の200Vと、制御用の100V両方のブレーカを「入」(ON)にします。



- ②タイマーのスイッチが「自動」になっていることを確認します。

【重要】

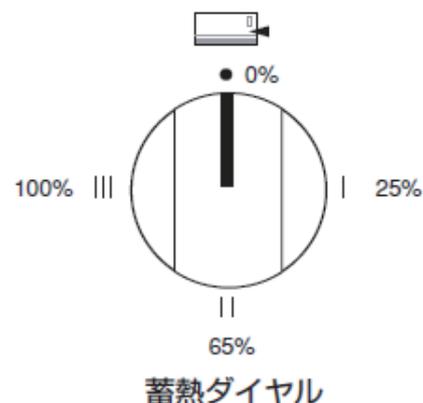
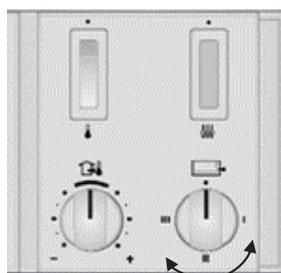
- 電気代が高い時間帯にタイマーのスイッチを「入」にすると、電気代が高くなる可能性があります。



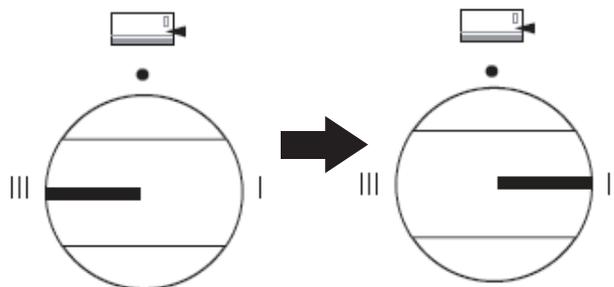
- ③蓄熱ダイヤルを任意の蓄熱量(無段階)に合わせます。

MEMO

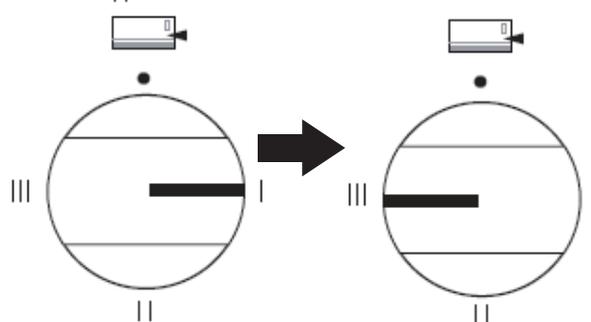
- シーズンセンサー使用時は「Ⅲ」に設定してください。



- ④天気予報で翌日が暖かい場合は、蓄熱ダイヤルの設定を下げます。



- ⑤天気予報で翌日が寒い場合は、蓄熱ダイヤルの設定を上げます。



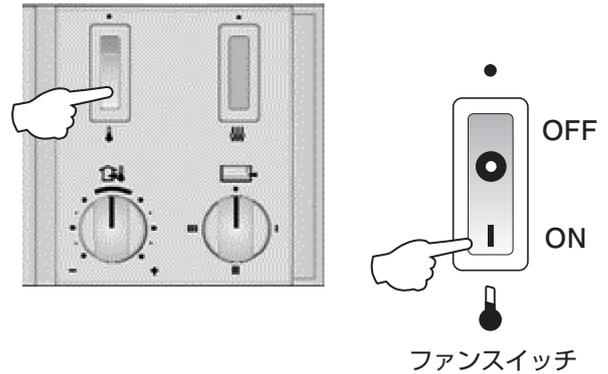
- ⑥暖房を停止させる場合は、蓄熱ダイヤルを「●」に設定して、ブレーカを「切」(OFF)にします。

3-3. お部屋の暖めかた

3-3-1. 操作部でファンを操作する場合

(1) ファンを運転します

- ①操作部のファンスイッチの「I」を押します。
- ②操作部のファンスイッチが点灯してファンが動きます。
- ③現在室温>設定室温になるとファンが自動停止します。

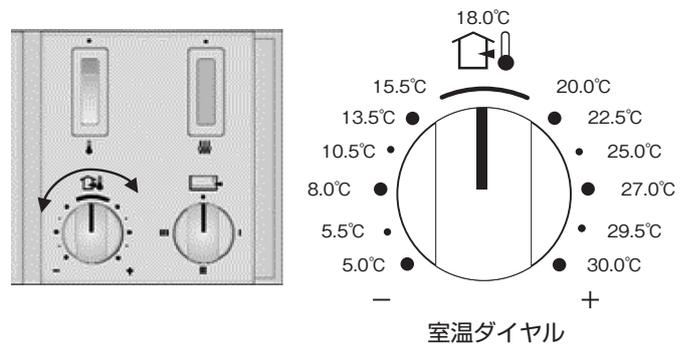


(2) 室温を設定します

- ①操作部の室温ダイヤルを任意の位置まで回します。

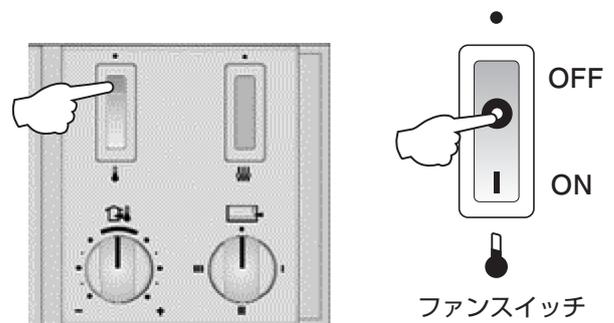
MEMO

- 記載の温度は、あくまでも目安です。記載の温度になることを保証するものではありません。



(3) ファンを停止します。

- ①操作部のファンスイッチの「O」を押します。
- ②ファンスイッチが消灯し、ファンが停止します。



MEMO

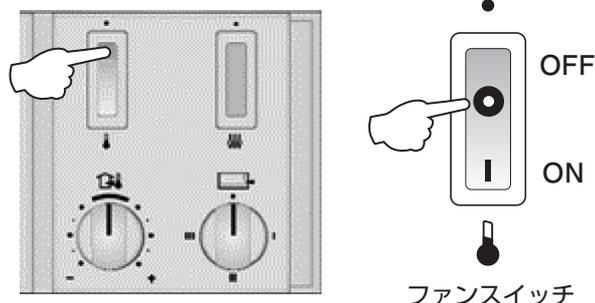
- <通電開始時間>以降にファンが動作し続けると、<通電終了時間>までに蓄熱量が<設定蓄熱量>に達しない場合があります。この蓄熱時間帯は、できるだけファンを停止してご利用ください。

3-3-2. 外付けルームサーモRTA-S2 (オプション品) を利用する場合

- ①外付けルームサーモを使用している場合、操作部の室温ダイヤルによる設定は無効になります。
- ②外付けルームサーモを使用している場合、操作部のファンスイッチは常に「○」にします。

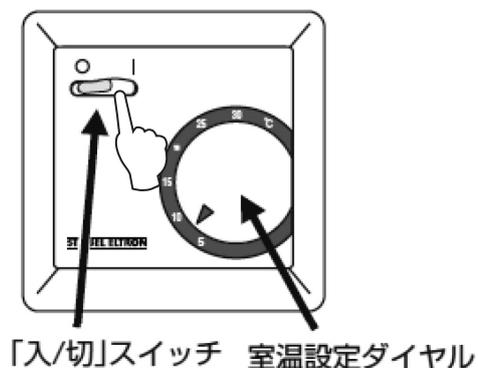
(1) ファンを運転します。

- ①操作部のファンスイッチが消灯していることを確認します。



- ②外付けルームサーモの「入/切」スイッチを「I」にします。

- ③外付けルームサーモの室温設定ダイヤルを任意の設定室温に合わせます。



(2) ファンを停止します。

- ①ファンを止める場合は、外付けルームサーモの「入/切」スイッチを「○」にします。

MEMO

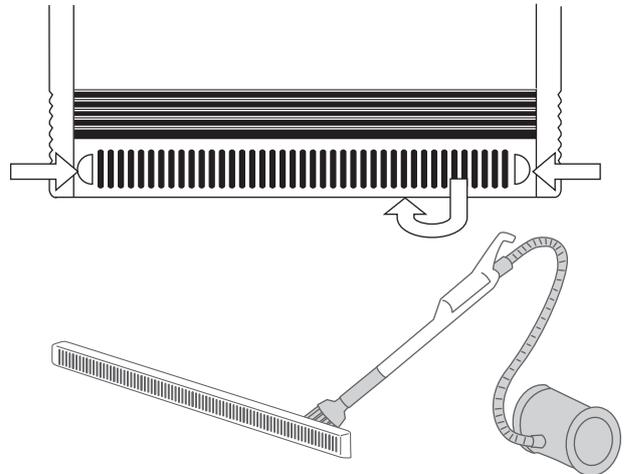
- 外付けルームサーモに水をかけたり、中に異物を入れたりしないでください。火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 外付けルームサーモを布等で覆わないでください。ファンが正常に動作しなくなります。また、火災や故障の原因となることがあります。

4. 日常の点検とお手入れ

4-1. 暖房シーズン前の準備

(1) 吸気グリルの清掃

- ①吸気グリル正面左右の溝に指を掛けます。
- ②吸気グリルの下側を手前に引いて外します。
- ③吸気グリルの上側を手前に引き、機器から外します。
- ④吸気グリルのフィルターを外して、吸気グリル、フィルターそれぞれを掃除機で清掃します。

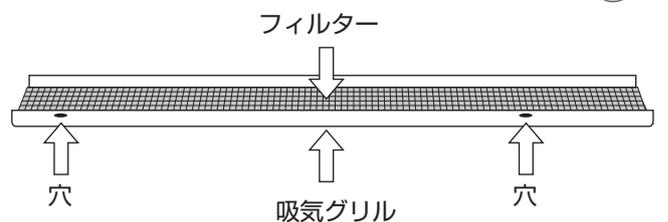


MEMO

- 両手が届かない場合は、左右分けて外します。

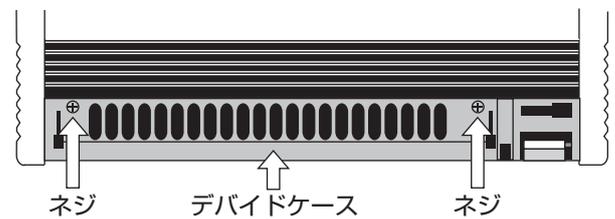
(2) 吸気グリルを固定します。

- ①吸気グリルの内側にフィルターを入れます。
- ②デバイドケースのネジに、吸気グリルの上側の左右2ヶ所の穴を引掛けます。



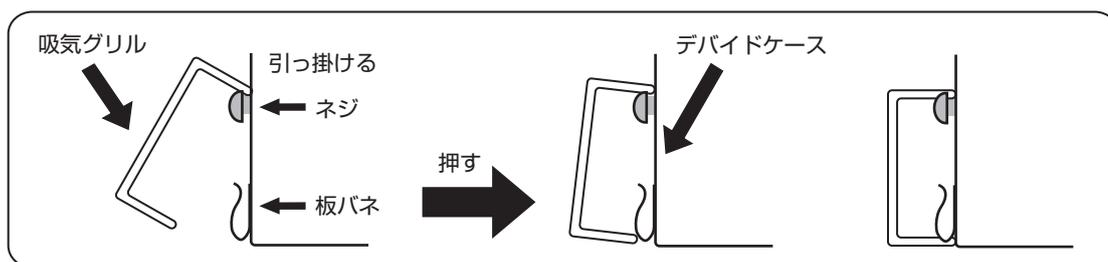
上方内側から見た図

- ③吸気グリルの下端を機器下部の板バネに押し付けて固定します。



正面から見た図

- ③吸気グリルの下端を機器下部の板バネに押し付けて固定します。



右側方から見た図

(3) タイマーの確認

- ①P.5「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」を参照して、<現在時刻>が日本の標準時とあっているか確認します。
- ②P.5「3-1. 現在時刻と通電時間の設定」を参照して、<通電時間>が電気代の割安な時間帯に設定されていることを確認します。
- ③タイマーのスイッチが「自動」になっていることを確認します。

【重要】

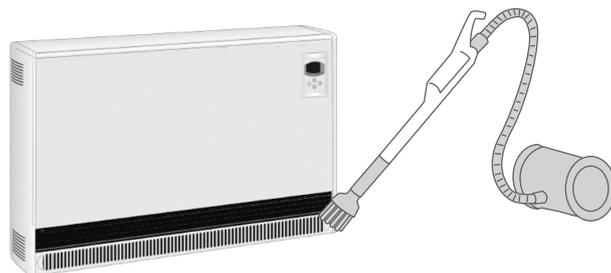
- <現在時刻>、<通電時間>がずれていること、タイマーのスイッチが「入」になっていることによる電気代の増加分は保証しておりません。必ずお客様ご自身で、機器をご使用になる前にご確認ください。

4-2. 暖房期間中のお掃除

- ① 4-1項(1)(2)に従い吸気グリルを外して、掃除機でほこりを吸い取ってください。

MEMO

- 暖房期間中に吸気グリルとフィルターを清掃する場合は、吸気グリルの温度が下がっていることを確認してください。
- 蓄熱している状態で、吸気グリルをつけたまま掃除機で清掃すると、掃除機が熱で破損する可能性があります。



5. 故障かな?と思ったら

下記の現象が見られる場合、はじめに専用ブレーカを「切」(OFF)にし、再度専用ブレーカを「入」(ON)にし、確認項目について処置内容を実施してください。

現象	確認項目	処置内容	参照ページ
機器が温まらない。	機器の電源ブレーカの「入」(ON)「切」(OFF)	専用ブレーカをすべて「入」(ON)にしてください。	—————
	蓄熱ダイヤル	蓄熱ダイヤルの設定を高くします。	P7. 3-2
	タイマーの設定	<通電時間>が短い場合は長くしてください。	P5. 3-1
	機器の離隔	機器の離隔距離内に物を置かないでください。	P1. 1
ファンが回らない。	「ファンスイッチ」	操作部の「ファンスイッチ」を押して、「ファンスイッチ」を点灯させてください。	P8. 3-3
	室温ダイヤル	室温ダイヤルの設定を高くしてください。	P8. 3-3
	吸気グリル	吸気グリルを清掃してください。	P11. 4-2
	機器の離隔	機器の離隔距離内に物を置かないでください。	P1. 1
ファンが止まらない。	「ファンスイッチ」	操作部の「ファンボタン」を押して、「ファンスイッチ」を消灯してください。	P8. 3-3
深夜時間以外に蓄熱する。	タイマーの設定	<現在時刻>を日本標準時に合わせてください。	P5. 3-1
		<通電時間>を合わせてください。	P5. 3-1
専用ブレーカが落ちる。	—————	日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。	P13. 6
機器が熱過ぎる。	蓄熱ダイヤル	蓄熱ダイヤルの設定を低くします。	P7. 3-2
	タイマーの設定	<通電時間>を合わせてください。	P5. 3-1
	機器の離隔	機器の離隔距離内に物を置かないでください。	P1. 1

上記の処置後も現象が改善されない場合は、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。(P13.「6.点検及び修理について」参照)

<現在時刻>、<通電時間>の確認は、WS P-L J Tシリーズのみになります。

次の場合は故障ではありません。

現象	原因	参照ページ
蓄熱時に機器から音がする。	ヒーターがON/OFFする時にはリレーの動作音が発生しますが、異常ではありません。	—————
蓄熱、または放熱時に機器から音がする。	熱の影響による機器の熱膨張、または収縮による音で、異常ではありません。	—————
初期の運転時に臭いがする。	断熱材や蓄熱体、ヒーターに付着した成分等の臭いです。臭いがなくなるまで、お部屋を十分に換気してください。	—————
午後(夕方)になると吹出空気が暖かくない。	<通電時間>中にファンを回した場合や、蓄熱ダイヤルの設定が低すぎた場合に起こります。	—————
機器からときどき「カチッ」と音がする。	機器内部の部品が動作している音で、異常ではありません。	—————
ファンの風量が少なく感じる。	<現在室温>を最適にするための自動制御が働いている場合は、風量が少なくなります。	—————
機器が通常よりも熱い気がする。	外気温や設置状況により、表面温度に変化が出ることがあります。	—————
<現在時刻>が合っているが、<通電開始時間>になっても蓄熱されない。	マイコン制御により、<通電開始時間>直後には蓄熱を開始しないことがあります。	—————

6. 点検および修理について

(1) アフターサービス(点検・修理)を依頼される場合

アフターサービスを依頼される前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、P.12「5.故障かな?と思ったら」をよくお読みの上、それでも不具合がある場合、あるいは不明な点がある場合は、ご自分で修理をなさらないで、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。

TEL : 044-540-3203

アフターサービスを依頼される場合は、保証書をご覧の上、次のことをお知らせください。

- ①型名 : 銘板ラベルに記載
- ②製造番号 : 銘板ラベルに記載
- ③不具合の内容 : 蓄熱しない等の症状、及びご使用条件
- ④お取付け年月日
- ⑤お名前、ご住所、電話番号

(2) 補修用部品の最低保有期間について

この機器の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。補修用部品とは、その機器の機能を維持するための部品です。

(3) 保証について

この機器は、お取り付け日から1年保証です。

保証書は、お取扱い店、または施工店からお渡しいたしますので、必ず「お取扱い店」、「お取り付け日」、「製造番号」等の記入をお確かめになり、保証書の内容をよくお読みの上、保管してください。

修理を依頼される場合、日本スティーベル(株)に電話でご連絡ください。保証期間内であれば、消耗品を除き、保証書の記載内容に基づき無料修理を行ないます。保証期間を過ぎても、修理により機器の機能が維持できる場合にはご要望により有料修理いたします。

<現在時刻>、<通電開始時間>、<通電時間>がずれていることによる電気代の増加分は保証しておりません。必ずお客様ご自身で、機器をご使用になる前にご確認ください。

おねがい

- お客様ご自身で分解、改造した場合は、保証期間であっても無料修理の対象となりませんので、予めご了承ください。
- 電気の配線工事、機器の設置工事に起因する問題に関しては、機器の保証期間であっても無料修理の対象とはなりませんので、予めご了承ください。

7. 仕様

機種		WSP-350LJ	WSP-500LJ	WSP-350LJT	WSP-500LJT
ヒーター 定格	電圧	単相/三相 200V			
	周波数	50/60Hz			
	消費電力 (kW)	3.5	5.0	3.5	5.0
ファン 定格	電圧	単相 100V			
	周波数	50/60Hz			
	消費電力 (W)	18	26	18	26
	台数	2	3	2	3
	騒音 (dB)	34	34	34	34
制御 定格	電圧	単相 100V			
	周波数	50/60Hz			
	消費電力	2W			
最大蓄熱量 (kWh)		28.0	40.0	28.0	40.0
有効蓄熱量 (kWh)		24.5	35.0	24.5	35.0
外形 寸法	幅 (mm)	1130	1480	1130	1480
	高さ (mm)	495			
	奥行 (mm)	24			
総質量 (kg)		197	270	197	270
蓄熱体質量 (kg)		142	199	142	199
蓄熱 体	梱包数	10	14	10	14
	蓄熱体数	20	28	20	28
主要 部品	ヒーター	高耐熱ステンレスシーズヒーター			
	蓄熱体	フェオライト			
	蓄熱センサー	白金測温抵抗体			
	室温センサー	サーミスターセンサー			
	過蓄熱防止器	主回路遮断バイメタル式過熱防止器			
	電子基板	100V			
蓄熱異常防止器		バイメタル式			
放熱異常防止器		バイメタル式			
転倒回路遮断		転倒時回路遮断器 (耐震センサー: 傾斜60° 以上で全回路遮断)			
付属タイマー		なし	なし	あり	あり
オプション (別売品)	外付ルームサーモ	RTA-S2 サーマルフィードバック付バイメタル式ルームサーモ			
	通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用 耐熱性105℃以上 耐寒性-20℃ 難燃性			
	吹出口ガード	アルミ製 乳幼児の指等の挿入を防止			
	レベルアジャスター	本体下部に挿入し床面より高い位置に固定			

WSP-Lシリーズ 取付説明書

品 名……ローボーイ
WSP-Lシリーズ

型 名…… ●WSP-350LJ
●WSP-500LJ
●WSP-350LJT
●WSP-500LJT

取付工事店様へ

- この機器は、電気工事が必要となります。取付工事は必ず所定の資格を持った方が行なってください。
- この機器を正しく安全にお客様にご使用いただくために、取扱説明書、並びに取付説明書のP. 16「1. 安全上のご注意」をよくお読みの上、取付説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
- 施工上の責任は当社では負いかねますので、万一施工に起因する不都合が生じた場合は、貴店の保証規定により修理していただくようお願い致します。
- 別紙、保証書(写)に必要事項を記入の上、必ず保管してください。

1. 安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で表示しています。

 警告 誤った取扱いをしたときに、死亡、または重傷に結びつく可能性があるもの。	 注意 誤った取扱いをしたときに、傷害、または家屋・家財等の損害に結びつくもの。
---	--

■ 本文中に使われている図記号の意味は次のとおりです。

 禁止マーク してはいけないことを示します。
 注意マーク 注意することを示します。
 指示マーク 必ず行なうことを示します。

警告

禁止

-  絶対に改造はしないでください。
-  付属の電源ケーブルを外さないでください。
-  取外しの指定がない部品は、取り外さないでください。また、指定されている付属部品以外は使用しないでください。
-  200Vの電源ケーブルに100Vの屋内配線を接続しないでください。
-  100Vの電源ケーブルに200Vの屋内配線を接続しないでください。
-  L J Tシリーズのタイマー間の出力側配線に付属の100Vの電源ケーブルを接続しないでください。(L J Tシリーズのみ)
-  L J Tシリーズのタイマー間の電源配線に付属の200Vの電源ケーブルを接続しないでください。(L J Tシリーズのみ)
-  機器に水をかけないでください。また、機器が災害等により、濡れてしまった場合は、使用しないでください。
-  屋外や湿気の多い場所、浴室内には設置しないでください。
-  濡れた手で機器を操作しないでください。
-  機器を試運転中、試運転直後は、機器表面や吹出グリルが熱くなっているので触らないでください。
-  機器の近くに、ガス類等の可燃性物質や爆発の恐れがある物質を保管したり、使用したりしないでください。



他の機器と隣接させないでください。



畳、じゅうたん、クッションフロア等の上には絶対に設置しないでください。



全ての端子台のネジは必ず増締めし、増締めを行なわないまま、引き渡さないでください。



注意



電源ケーブル等の配線は最小の長さにして、周囲に遊びをとらないでください。



電源ケーブルを機器内部で弛ませないでください。



指示



アースは第三種接地工事（D種接地）を行なってください。



専用の漏電ブレーカを必ず設置してください。



電圧は定格電圧の±10%以内であることを確認してください。



屋内配線は、電源仕様、定格電流、及び消費電力を左面パネル下部の銘板ラベルで確認して、必ず内線規程に従って配線を行なってください。



ジョイントボックスは、機器の右面パネルから50mm以上離して設置してください。



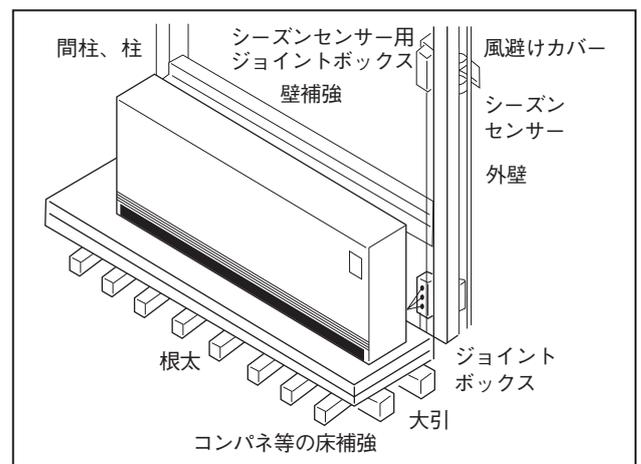
端子台の配線と右面パネル裏の結線図ラベルの配線が一致していることを確認してください。



コネクタ類が抜けたり、緩んだりしていないことを確認してください。



機器は、適切な壁補強、並びに床補強がされた、壁面と床面に固定してください。

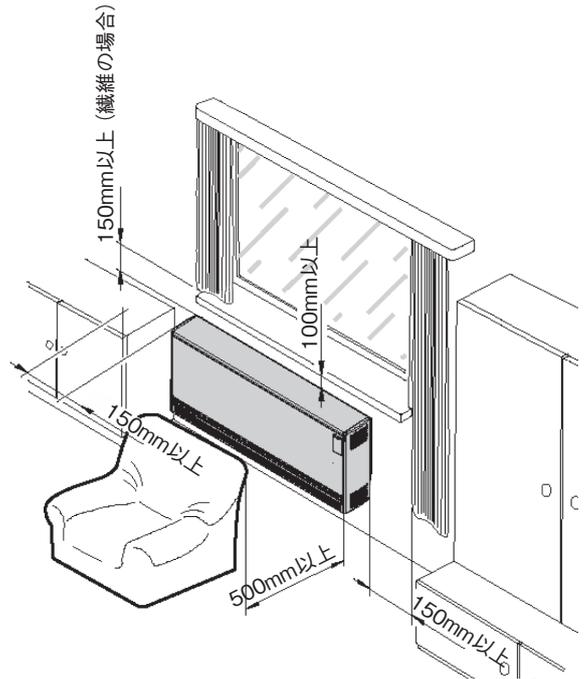




機器を正常に動作させるために離隔距離を守ってご使用ください。

設 置	離隔距離	備 考
前面	500mm以上	暖房機能確保のため
左面	150mm以上	メンテナンススペース確保のため
右面	150mm以上	メンテナンススペース確保のため
天板	100mm以上	本体温度が高くなるため

※カーテン等、全ての繊維は、機器から150mm以上離してください。



設置地域の火災予防条例に即した離隔距離をとってください。



注意



禁止



設置前の機器や蓄熱体は、雨水が当たる場所や、雪上、氷上に置かないでください。



機器の天板パネルの上に物を置いたり、寝転がったり、機器に荷重を掛けたりしないでください。



注意



機器のパネルやグリル等を外す場合は、怪我をしないように気を付けてください。



蓄熱体は、落としたりしないよう両手で持って運んでください。



指示



仕上材、及び下地材に使用する木質材料、固定用の接着材等にはホルムアルデヒド等のVOCの放散が基準値以下になるものを使用してください。



棚下等に設置した場合は、棚板等の含水量や空気の乾燥度によって反る場合があります。正しい離隔が保たれていても、板等の反りや割れについて保証しておりません。



壁紙、床材等は、熱で変色しないもの、防災仕様のもの、清掃可能なものを使用してください。



機器の異常を発見した場合は、お客様に引き渡さず、日本スティーベル（株）に電話でご連絡ください。



検査記録表（P. 42「8. 試運転の手順」）に試運転時の検査記録を必ず記入してください。



取扱説明書の保証書に、お客様、お取扱い店、お取り付け日、製造番号等の必須事項を記入し、お取扱い店、及び取扱責任者印を捺印してください。

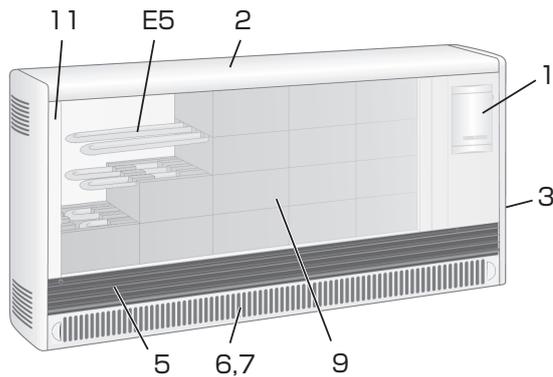


工事終了後は、必ずお客様に取扱いの説明を行なってください。直接説明できない場合は、現場責任者等
 代行者に説明し、必ずお客様に取扱いの説明がなされるようにしてください。

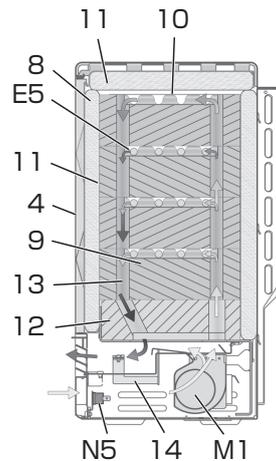


取扱説明書をお客様に必ず保管していただくようお願いしてください。

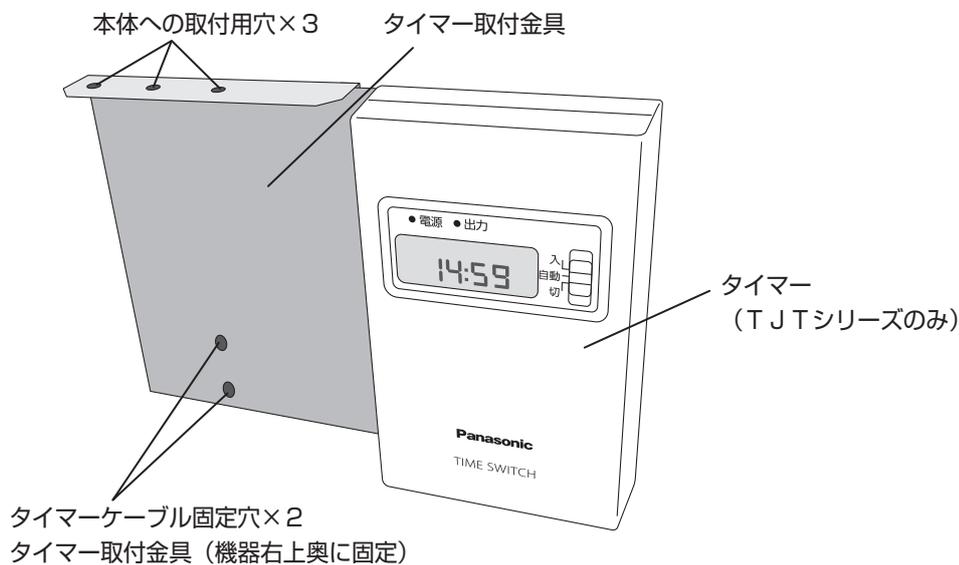
2. 各部のなまえ



- 1：操作部
- 2：天板パネル
- 3：右面パネル
- 4：前面パネル
- 5：吹出グリル
- 6：吸気グリル
- 7：フィルター
- 8：バッフル板
- 9：蓄熱体



- 10：対流板
- 11：マイクロサーム
- 12：サーモソリッド
- 13：ダブルエアダンパー
- 14：ダブルエアダクト
- E5：ヒーターエレメント
- M1：クロスフローファン
- N5：放熱異常バイメタル



3. 部品の確認

● 次の部品があることを確かめてください。

部品名	同梱場所	部品名	同梱場所
機器本体	—	背面固定金具	機器背面
蓄熱体	別梱包	対流板	機器内部
取扱取付説明書（保証書付）	機器天板パネルの上	壁固定金具セット	機器内部
吸気グリル&フィルター	機器の上部梱包の上	シーズンセンサー	機器内部
整流板	機器背面	タイマーキット（LJTのみ）	機器天板

型 名	WSP-350LJ WSP-350LJT	WSP-500LJ WSP-500LJT
蓄熱体梱包数 （ ）内は蓄熱体個数	15 (30)	21 (42)
背面固定金具横幅寸法 (mm)	1055	1405
背面固定金具ネジ穴数	9	10

壁固定金具セット

型 名	WSP-350LJ WSP-350LJT	WSP-500LJ WSP-500LJT
背面固定金具固定用ネジとワッシャー (6×40)	9	10
床固定用ネジとワッシャー (6×30)	2	2
背面固定金具の蓄熱暖房器固定用ネジと歯付座金 (M4×8)	4	4
背面固定補強金具	1	3
背面固定補強金具固定ネジ M5×10W セムスネジ	3	9

※機器を保護しているプラスチックシートは清掃の際に使用しますので捨てないでください。

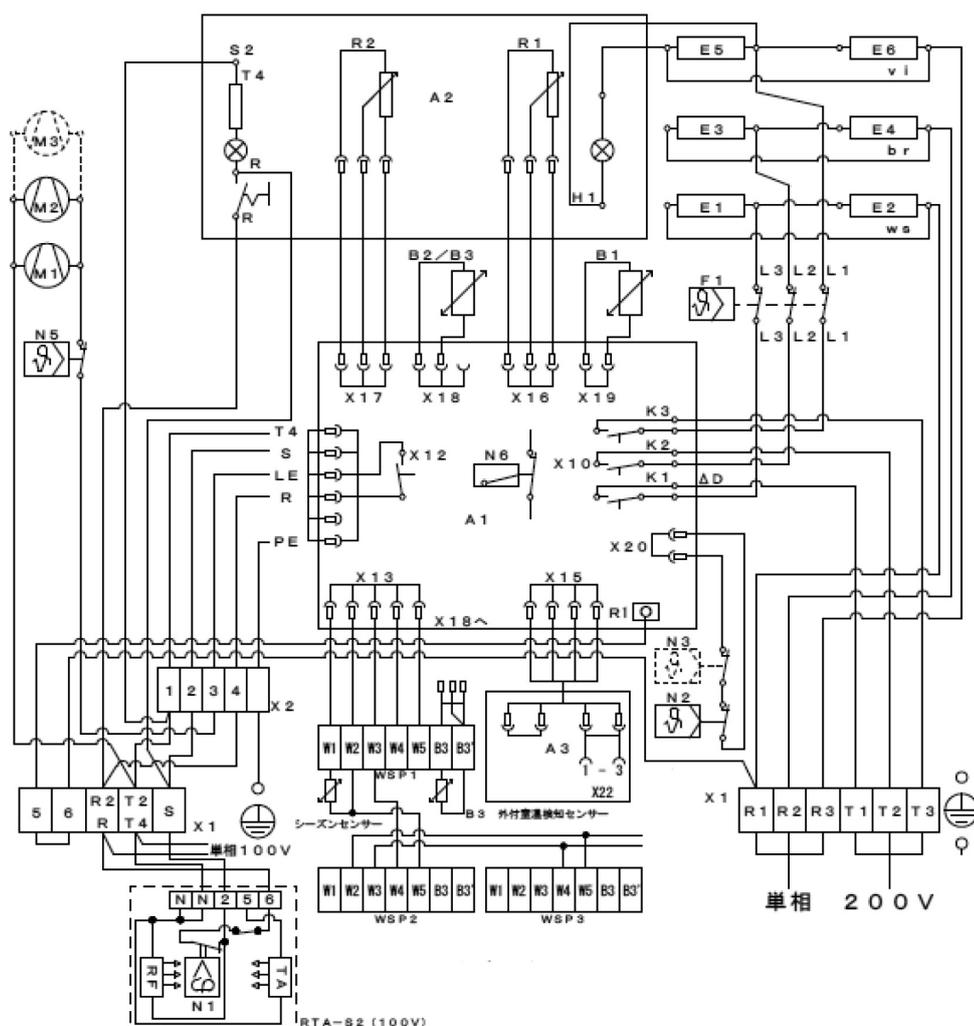
4. オプション（別売品）部品

外付ルームサーモ	RTA-S 2 サーマルフィードバック付バイメタル式サーモ
通信ケーブル	シーズンセンサーケーブル延長用 耐熱性105℃以上 耐寒性-20℃ 難燃性
吹出口ガード	アルミ製 乳幼児の指などが吹出グリルから入らないようにします。
レベルアジャスター	機器下部に設置し、機器を床面より高い位置に固定

5. 標準仕様と配線図

5-1. WSP-LJシリーズ

型名	WSP-350LJ	WSP-500LJ
通電開始時間	電力会社のタイマーに従います。	
通電時間	電力会社のタイマーに従います。	
ヒーター定格	電源 周波数	単相 200V 50/60Hz
	消費電力 (kW)	3.5
	定格電流 (A)	17.5
ファン定格	電源 周波数	単相 100V 50/60Hz
	消費電力 (kW)	18
	台数	2
	騒音 (dB)	34
制御定格	電源 周波数	単相 100V 50/60Hz
	消費電力	2W

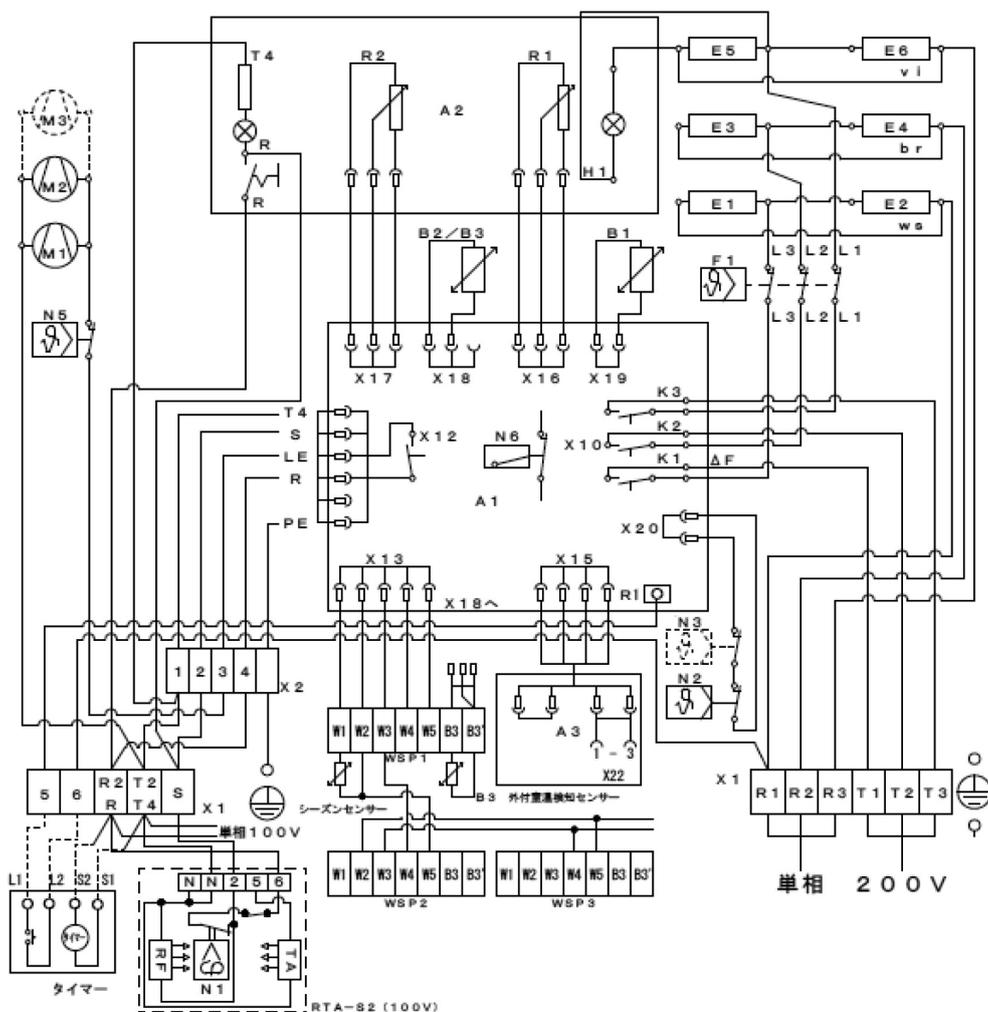


- A 1 : 電子基板
- A 2 : 表示部基板
- A 3 : サービスプラグ
- B 1 : 蓄熱体センサー
- B 2 : 室温センサー
- B 3 : 外付室温検知センサー
- E 1 - E 6 : ヒーター
- F 1 : 手動復帰式
過昇温防止器
- H 1 - H 8 : 表示ランプ
- K 1 - K 3 : リレー
- M 1 - M 3 : ファン
- N 2 : 蓄熱異常バイメタル
- N 3 : 蓄熱異常バイメタル
(5 kWのみ)
- N 5 : 放熱異常バイメタル
- N 6 : 耐震センサー
- X 1 : 主回路端子台
- X 2 : 補助回路端子台

単相200V 3芯の屋内配線と、機器に接続されている3芯の電源ケーブルを接続します。
また、単相100V 2芯の屋内配線と、機器に接続されている2芯の電源ケーブルを接続します。

5-2. WSP-LJTシリーズ

型名	WSP-350LJT	WSP-500LJT
通電開始時間	23:00	
通電時間	07:00	
ヒーター定格	電源 周波数	単相 200V 50/60Hz
	消費電力 (kW)	3.5
	定格電流 (A)	17.5
ファン定格	電源 周波数	単相 100V 50/60Hz
	消費電力 (kW)	18
	台数	2
	騒音 (dB)	34
制御定格	電源 周波数	単相 100V 50/60Hz
	消費電力	2W



- A 1 : 電子基板
- A 2 : 表示部基板
- A 3 : サービスプラグ
- B 1 : 蓄熱体センサー
- B 2 : 室温センサー
- B 3 : 外付室温検知センサー
- E 1 - E 6 : ヒーター
- F 1 : 手動復帰式過昇温防止器
- H 1 - H 8 : 表示ランプ
- K 1 - K 3 : リレー
- M 1 - M 3 : ファン
- N 2 : 蓄熱異常バイメタル (5 kW)
- N 3 : 蓄熱異常バイメタル (5 kW)
- N 5 : 放熱異常バイメタル
- N 6 : 耐震センサー
- X 1 : 主回路端子台
- X 2 : 補助回路端子台

単相200V3芯の屋内配線と、機器に接続されている3芯の電源ケーブルを接続します。

また、単相100V2芯の屋内配線と、機器に接続されている2芯の電源ケーブルを接続します。

<通電開始時間>と<通電終了時間>は、電力契約に合わせて変更します。

機器とタイマー間は、出力の200Vのケーブルは、タイマーの端子台「L1」、「L2」に接続してください。

機器とタイマー間は、電源の100Vのケーブルは、タイマーの端子台「S1」、「S2」に接続してください。

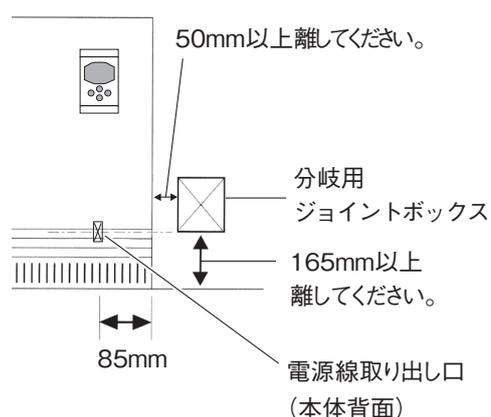
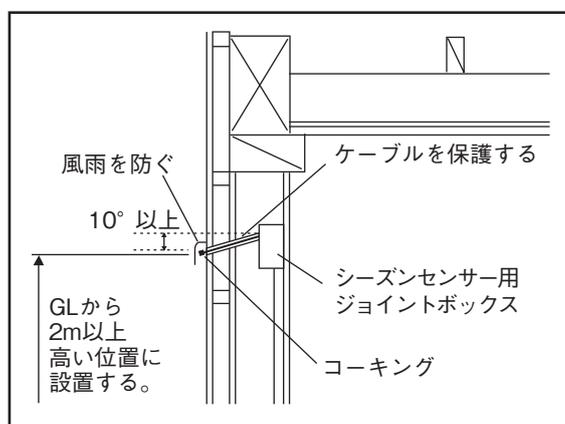
6-3. シーズンセンサーの配線

6-3-1. 設置場所の選定

- ①シーズンセンサーの先端が、日射や風雨に直接さらされない場所へ設置してください。
- ②シーズンセンサーの先端を、地面や床の近くに設置しないでください。輻射の影響により正確な温度が検知できない可能性があります。
- ③外壁や軒下に設置する場合は、住宅の排気が当たらない場所に設置してください。
- ④下記のいずれかに当てはまる場合は、床下にシーズンセンサーを設置しないでください。
 - i) 基礎断熱している住宅の場合。基礎内が暖かいため蓄熱しなくなる可能性があります。
 - ii) 床暖房をしている住宅の場合。床暖房の影響を受けて蓄熱しなくなる可能性があります。
 - iii) 床下に暖房器を設置している住宅の場合。基礎内が暖かいため蓄熱しなくなる可能性があります。
 - iv) 基礎に囲まれた空間が、外気温と著しく異なる温度になる場合。基礎内が暖かく蓄熱しなくなる可能性があります。

6-3-2. シーズンセンサー設置

- ①シーズンセンサー用ジョイントボックスを接続、及び点検可能な場所に設置します。
- ②シーズンセンサーを外壁に通す穴には、絶縁チューブを入れる等ケーブルの保護対策を施してください。
- ③シーズンセンサーは外壁に向け 10° 以上の傾斜を設けてください。
- ④シーズンセンサーを通した穴は、コーキングし、雨水の侵入を防いでください。
- ⑤ケーブルは機器から内壁、または床に入る箇所と、シーズンセンサー先端近くで必ず固定してください。
- ⑥機器の端子台への接続には、2芯 0.5mm^2 以上、耐熱 105°C 以上の自己消火性のあるケーブルを使用してください。
- ⑦シーズンセンサーの配線ケーブルは、他の電源ケーブルと近接して並行させないでください。(150mm以上離さないともノイズを拾い正常に機能しない可能性があります。)
- ⑧機器設置位置の右側から50mm以上離れた位置に分岐用ジョイントボックスを設置します。
なお、電源ケーブル用のジョイントボックスと共用することができます。
- ⑨シーズンセンサー先端を接続した屋内配線を、①で設置したシーズンセンサー用ジョイントボックスに引き込みます。

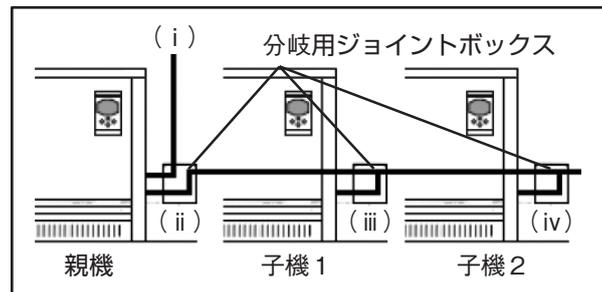


6-3-3. 子機のシーズンセンサーへの配線

(1) 分岐ジョイントボックス内での配線の分岐の場合

①機器間に 0.5mm^2 以上で2芯の屋内配線を以下の通り準備します。

- (i) シーズンセンサーからの配線
- (ii) 子機への配線
- (iii) 親機から子機1への配線
- (iv) 親機から子機2への配線

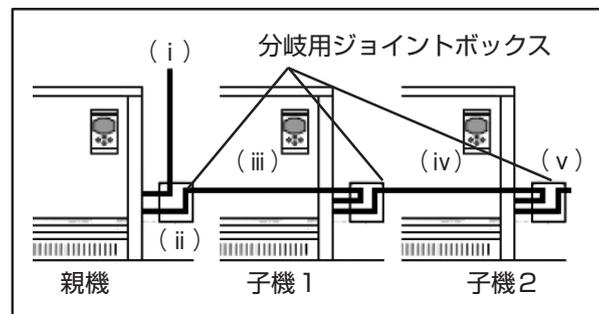


②①の配線を引き込むための、分岐用ジョイントボックスを準備します。

(2) 機器内部端子台での分岐の場合

①機器間に 0.5mm^2 以上で2芯の屋内配線を以下の通り準備します。

- (i) シーズンセンサーからの配線
- (ii) 子機への配線
- (iii) 親機から子機1への配線
- (iv) 子機1から子機2への配線
- (v) 子機2から子機3への配線



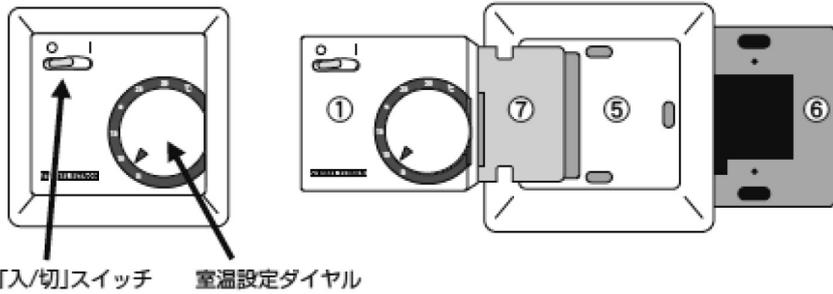
②①の配線を引き込むための、分岐用ジョイントボックスを準備します。

MEMO

○シーズンセンサーからの配線 (i) は、分岐させないでください。(P. 39「7-2. 配線の接続」参照)

6-4. 外付けルームサーモ（オプション）の配線

6-4-1. 外付けルームサーモの仕様



「入/切」スイッチ 室温設定ダイヤル

型名	RTA-S2
電源(V)	100
定格電流・抵抗負荷(A) ()内は誘導負荷	10(4)
寸法(mm)	(H × W × D) 74.5 × 74.5 × 28
設定範囲(°C)	5~30
質量(g)	78

- 付属部品
- ①RTA-S2本体
- ②サーモプレート（ネジ）M4×15
- ③取扱取付説明書
- ④3芯1.25mm² 1.3mケーブル
- ⑤サーモプレート（プラスチック部品）
- ⑥サーモプレート（金属部品）
- ⑦ゴムプレート

外付けルームサーモRTA-S2の取付方法の詳細については、RTA-S2に同梱の取扱取付説明書をご参照願います。

6-4-2. 設置場所の選定

①次のような場所での使用は避けてください。誤動作、寿命低下、事故につながる恐れがあります。

- 湿気、ほこり、腐食性ガスの多い場所
- 直射日光のあたる場所
- 外気、屋外の影響を受けやすい場所
- 化粧プレートが壁体内部になる場所
- 外来ノイズの多い場所
- 玄関ドア、窓の1m以内
- カーテンや扉等で塞がれてしまう場所
- 振動、衝撃の多い場所
- 暖房器の1.5m以内
- 油や油煙がかかる場所
- 結露の恐れがある場所
- 床面

②保守、点検は電源を切った状態で行なってください。

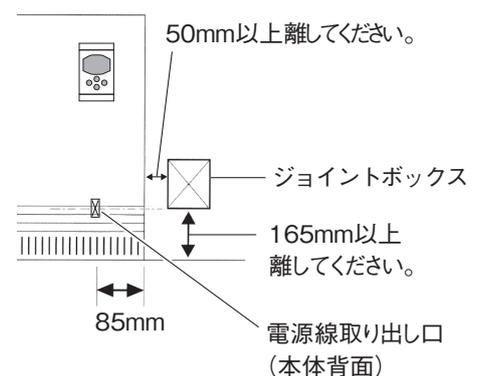
③内線規程に従って、電気工事士の資格を持っている方が作業してください。負荷電流に対して、配線の太さ、端子のサイズ、電気容量を確認して作業してください。

6-4-3. 取り付け前の準備

①機器設置位置の右側から50mm以上離れた位置にジョイントボックスを設置します。

（電源ケーブル用のジョイントボックスと共有することができます。）

②①で設置したジョイントボックスに引き込むよう、機器と外付けルームサーモ間に3芯1.25mm²以上のケーブルの配線を準備します。



7. 機器の設置

7-1. 背面固定金具の取り付け

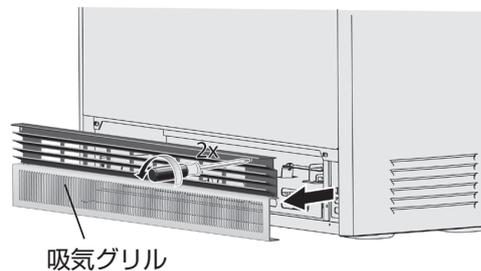
7-1-1. 外装の取外しかた

- ①吹出グリル中央の固定ネジ2本をプラスドライバーで反時計回りに半回転し、吹出グリル手前に引いてを外します。



MEMO

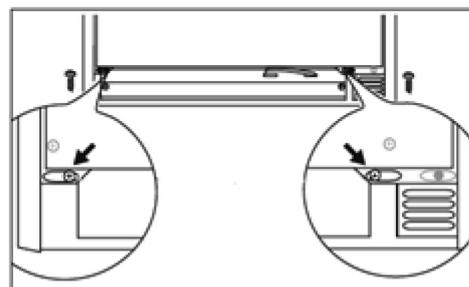
- 前面パネルは吹出グリルが付いている状態では外せません。



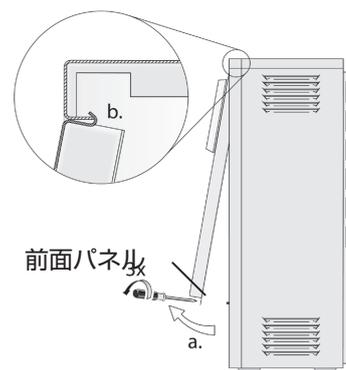
- ②前面パネルを固定している3ヶ所のネジをプラスドライバーで外します。

正面から見て左端にM4×8ネジ1本

正面からみて右側にM4×8ネジ1本 (歯付座金付き)



- ③前面パネルは、右図の「a」の矢印の方向に前面パネル下部を手前に引き、上に少し押し上げて、天板パネルの「b」の引っ掛かりを外して機器から外します。



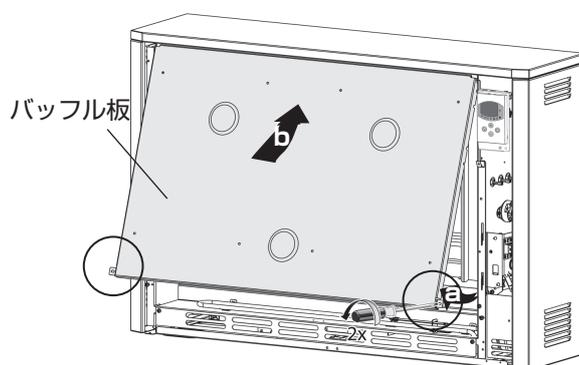
- ④バッフル板下部両端のM4×8ネジ2本をプラスドライバーで外します。

600Tシリーズは、その他に中央下部にある固定ネジM4×35を1本外します。

700Tシリーズは、その他に中央下部にある固定ネジM4×35を2本外します。

- ⑤矢印「a」の方向にバッフル板下部を引き上げ、矢印「b」の方向にバッフル板を押し上げて外します。

- ⑥機器内部にある対流板やシーズンセンサー、壁固定金具セット等を取り出します。



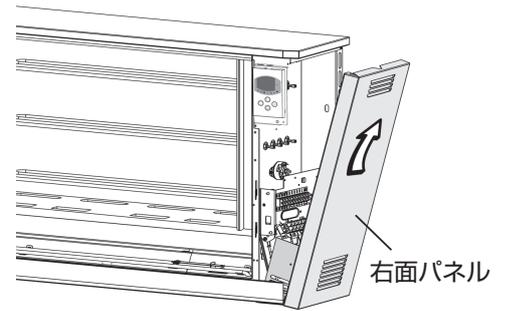
MEMO

- ヒーターを固定しているダンボールは、蓄熱体を入れるまで外さないようにします。

- ⑦右面パネルの上部背面側のM4×8ネジ1本（歯付座金付き）をプラスドライバーで外し、右面パネル上部を少し前方に移動させて天板から外し、右面パネルを右図の矢印の方向に持ち上げ、下面の突起2ヶ所から外します。

MEMO

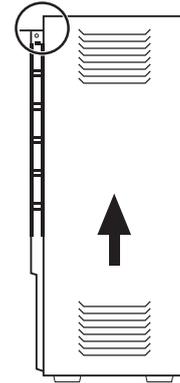
- 右面パネルは、前面パネルを外さなくても、外すことができます。



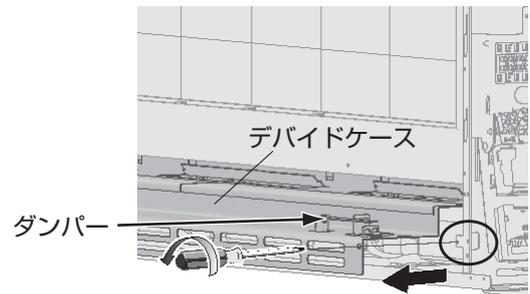
- ⑧左面パネルの上部背面側のM4×8ネジ1本（歯付座金付き）をプラスドライバーで外します。
 ⑨左面パネル上部を少し前方に移動させて天板から外し、矢印の方向に持ち上げ、下面の突起2ヶ所から外します。

MEMO

- 左面パネルは、前面パネルを外さなくても、上記⑧⑨の作業で外すことができます。

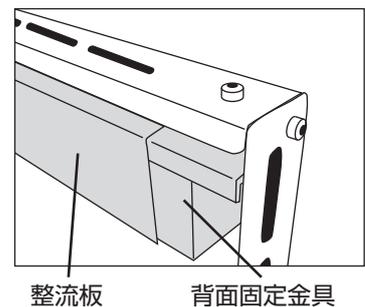


- ⑩デバイドケース両端のM4×8ネジ2本をプラスドライバーで外し、デバイドケースのダンパーを下へ軽く押しながら矢印の方向に引き、機器から外します。

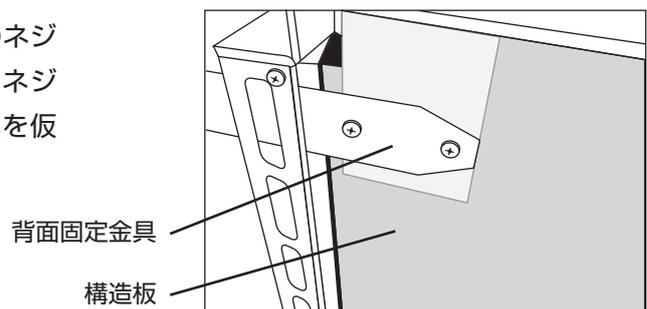


7-1-2. 背面固定金具の固定

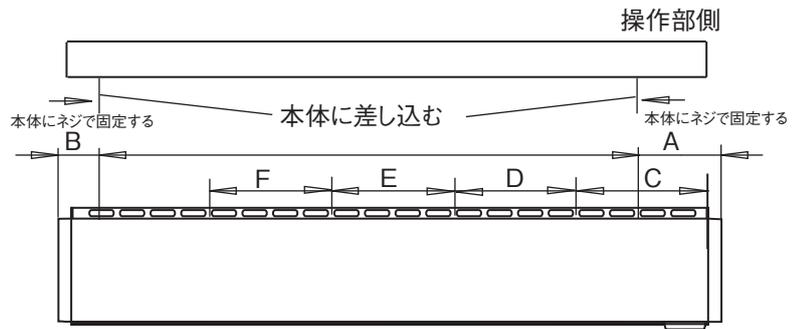
- ①背面のインシュロックを切断し、整流板を機器から外します。



- ②背面固定金具を固定しているテープを剥がし、構造板のネジ穴と背面固定金具のネジ穴を合わせて、付属のM4×8ネジ4本と歯付座金（左右それぞれ2ヶ所）で背面固定金具を仮止めします。



- ③機器を固定位置に置き、背面固定金具の位置を壁面にマークします。



壁固定位置

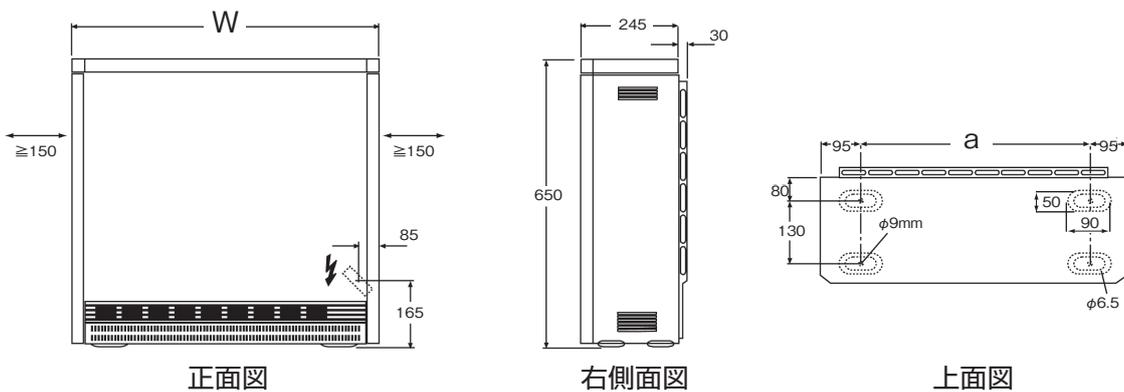
単位：mm

型名	A	B	C	D	E	F
WSP-350LJ WSP-350LJT	137.5	69.0	278.5	192.0	192.0	-
WSP-500LJ WSP-500LJT	137.5	69.0	331.0	223.0	223.0	223.5

- ④機器前面2ヶ所の床固定位置を床面にマークします。

MEMO

- 前面右側には2ヶ所の穴が開いておりますが、φ6.5の穴のみにマークします。



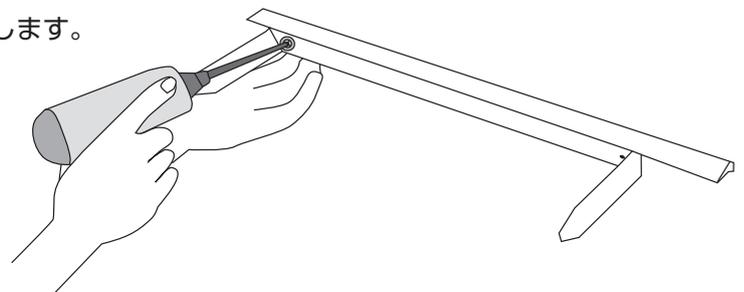
床固定位置

単位：mm

型名	W	a
WSP-350LJ WSP-350LJT	1130	965
WSP-500LJ WSP-500LJT	1480	1315

- ⑤機器を壁面から離し、背面固定金具を機器から外します。
 ⑥床にマークした場所にφ4の下穴を20mm開けます。
 下穴を開けることで、床固定ネジを固定しやすくします。

- ⑦背面固定金具を事前にマークした壁面に合わせてM6×40ネジとワッシャーで固定します。



おねがい

- 背面固定金具を壁に取り付ける際は、必ず機器に応じた指定本数のネジとワッシャー (P.20「3.部品の確認」を参照) を使用してください。
 ○プラスターボードや壁の厚み等により同梱のネジでは長さが長すぎる場合や、短い場合は、直径6mmの適切な長さのネジをご用意ください。

7-2 配線の接続

7-2-1. 電源ケーブルとの接続

- ①屋内配線と機器の電源ケーブルを圧着接続します。
- ②接続部はジョイントボックスに収納します。
- ③機器の黄色/緑のアース線を屋内配線のアース線と圧着接続します。

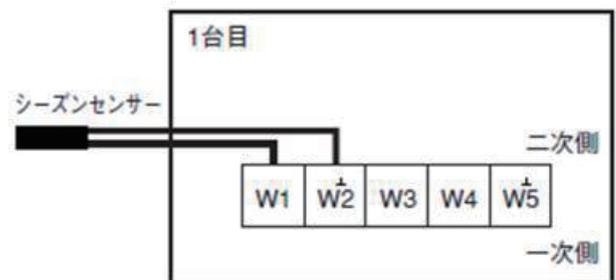
7-2-2. シーズンセンサーとの接続

- ①シーズンセンサーの接続は、右面パネル内の端子台「W1～W5」を使用し、以下の結線図を参照し正しく接続してください。接続を誤ると正しく動作しません。
- ②機器内部へ引き込む配線は必ず耐熱ケーブルをご使用ください。(シーズンセンサーの素材は耐熱ケーブルです。シーズンセンサーを切断して使用することも可能です。 ※右図参照)



(1) 単独 (1台) でシーズンセンサーを使用する場合

- ①1シーズンセンサーの配線を端子台「W1」、「W2」の二次側へ接続します。(シーズンセンサーのケーブルに、極性はありません。)



(2) 複数台でシーズンセンサーを使用する場合

- ①並列接続の場合 (10台以下の場合、並列接続を推奨します。)
シーズンセンサーの信号を受ける親機を決めます。

MEMO

- 親機 (1台目) のブレーカを「切」(OFF) にすると、シーズンセンサーの信号が子機へ伝わらなくなりますので、暖房期間中最後まで使用する機器を、親機にすることをお勧めします。

親機 (1台目) から子機への接続 (極性あり)

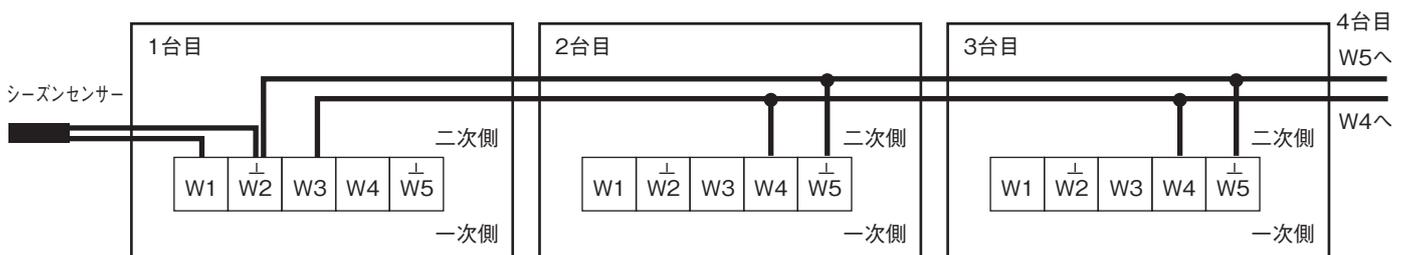
親機「W2」→子機「W5」

親機「W3」→子機「W4」

子機間の接続

子機「W4」→子機「W4」

子機「W5」→子機「W5」



(接続を誤ると、子機は手動操作になります。)

②直列接続の場合（11台以上の場合は、直列接続を交え並列接続を行います。）

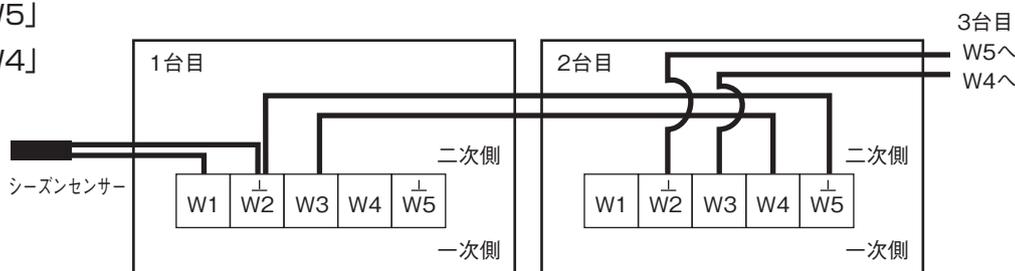
直列接続の場合、通信時間が1台につき1分程度遅れます。

直列接続の場合、制御電源をOFFにした機器の子機は、外気温の信号が受信できないため設定蓄熱量を手動で操作する必要があります。

子機間の接続（極性あり）

子機「W2」→子機「W5」

子機「W3」→子機「W4」

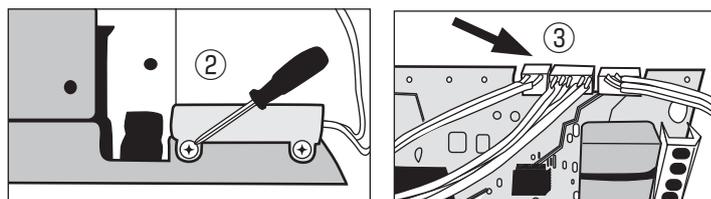


7-2-3. 外付けルームサーモとの接続

外付けルームサーモの取付方法の詳細は、同梱の取扱取付説明書をご参照願います。

①機器正面右下にある室温センサーを固定するネジ2本を外します。

②基板（大）から矢印の室温センサーのコネクタを外し、廃棄します。

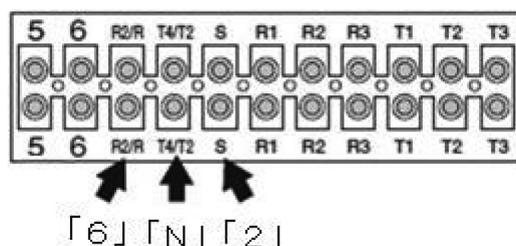


③外付けルームサーモからの3芯1.25mm²以上の耐熱ケーブルを右図の矢印の位置に接続します。

「6」の配線を、端子台「R2/R」の1次側に接続。

「N」の配線を、端子台「T2/T4」の1次側に接続。

「2」の配線を、端子台「S」の1次側に接続。



7-2-4. 端子の増締めと配線の確認

全ての端子台の端子、アース線、電源ケーブルを電氣的に接続しているネジを増締めしてください。結線図と通りに結線されていることを確認してください。

①WSP-LJシリーズの場合（P.21「5-1項」参照）

②WSP-LJTシリーズの場合（P.22「5-2項」参照）

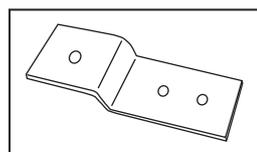
7-3 機器の固定

7-3-1. 壁面・床面への固定

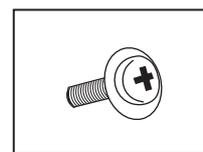
①天板パネルの背面側に、背面固定補強金具（以下、補強金具）を固定します。

補強金具の先端を機器の背面上端に当ててから、反対側を上を持ち上げます。

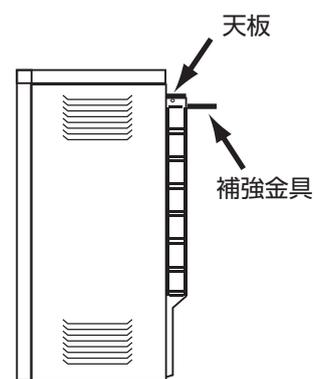
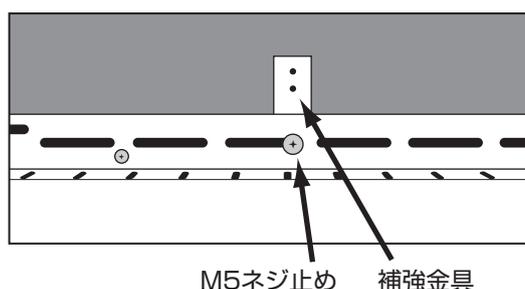
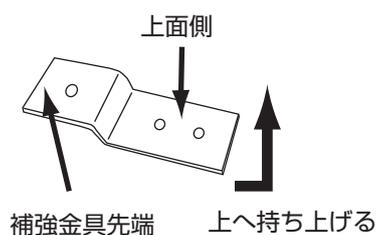
天板パネル側からM5×10Wのネジで、下記の取り付け位置にプラスドライバーで固定します。



・背面固定補強金具



・背面固定補強金具固定ネジ
M5×10Wセムスネジ



単位：mm

型名	補強金具数量	取付位置 背面固定金具の左端から	(参考) 背面固定金具の右端から
WSP-350LJ WSP-350LJT	1	540	—
WSP-500LJ WSP-500LJT	3	210	—
		715	695
		1220	190

MEMO

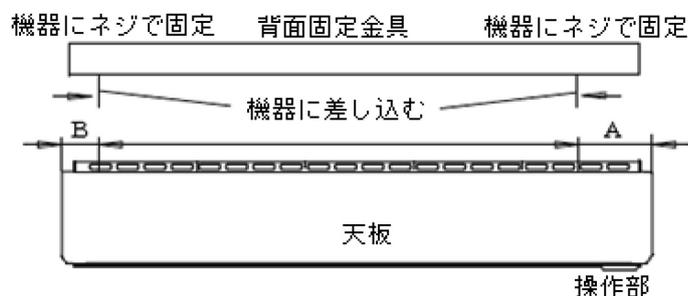
○天板パネルの長穴と背面固定金具の長穴が、壁面に対して一直線上となる位置で補強金具を取り付けます。

○目印のためにネジ等を天板パネルの長穴に差し込んでおきます。

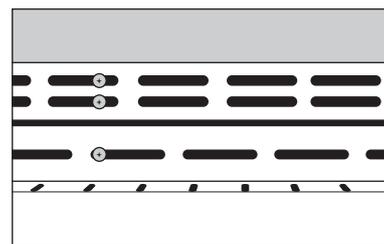
②背面固定金具の左右各1本の突起を、機器の所定の穴に差し込みます。

A: 137.5mm

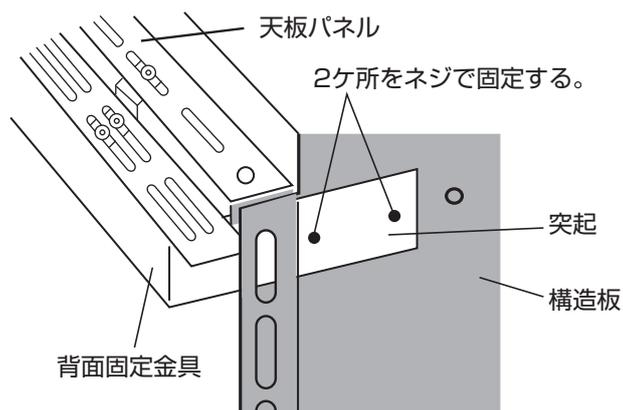
B: 69.0mm



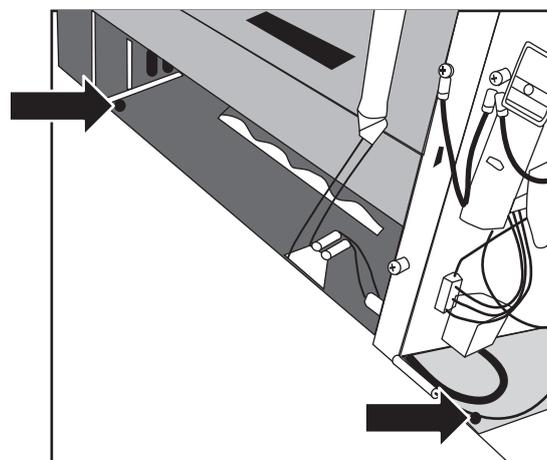
- ③補強金具が、背面固定金具上面の下になるように差し込みます。
- ④補助金具と背面固定金具をM5×10Wネジ2本で背面固定金具の上面側からプラスドライバーで固定します。



- ⑤背面固定金具を機器両側面の構造板に付属のM4×8ネジ4本（左右各2本）と歯付座金で所定の位置にプラスドライバーで固定します。



- ⑥床に開けた下穴2ヶ所と、機器下面の前面側の穴を合わせて、付属のM6×30ネジとワッシャーで床に固定します。



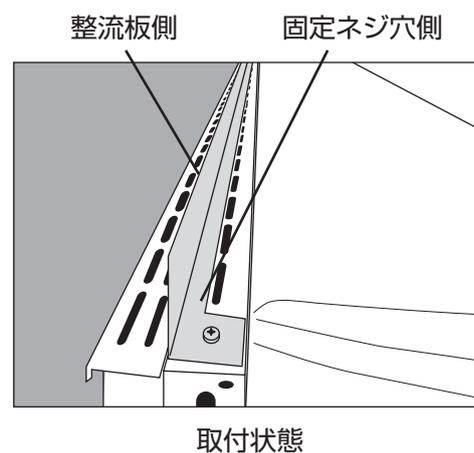
MEMO

- 右側のネジが固定しづらい場合は、基板架台を固定している背面のネジを1本緩め、基板架台を本体から外した状態で固定してください。

7-3-2. 整流板の取り付けかた

機器を設置する場合は、付属の整流板を必ず取り付けてください。

- ①整流板は、両端の固定ネジ穴側が前面側になるように、天板パネル両端のネジ穴に合わせます。(5kW以上の機器は整流板中央の突起を、天板パネル中央のネジと天板パネルの間に差し込みます。)
- ②整流板両端のネジ穴と、天板パネル両端の穴を合わせてまとめて固定します。(5kW以上の機器は、天板パネル中央のネジを締めつけます。)



7-4. 蓄熱体の組み込み

7-4-1. ファンモーターの養生

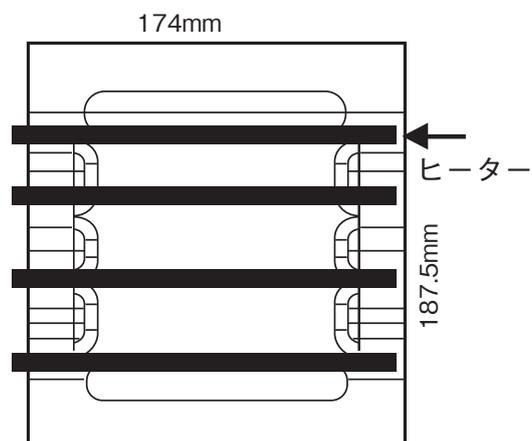
- ①蓄熱体から欠片やくず等の落下物が、ファンモーター内部に入らないように機器を梱包していたプラスチックシート等を利用して、ファンモーターのフィン部分を覆うように養生してください。
- ②養生用シートが機器内部に引っ掛かり、破けて残留しないように丁寧に取扱ってください。

7-4-2. 蓄熱体の取扱い

- ①蓄熱体は、すべて凹凸面が上向きになるように組み込んでください。
- ②蓄熱体は、前後左右対称です。
- ③ヒーターが溝と平行になるように組み込んでください。
- ④必ず蓄熱体の表面や溝のバリを削り、ハケで掃除してから組み込んでください。

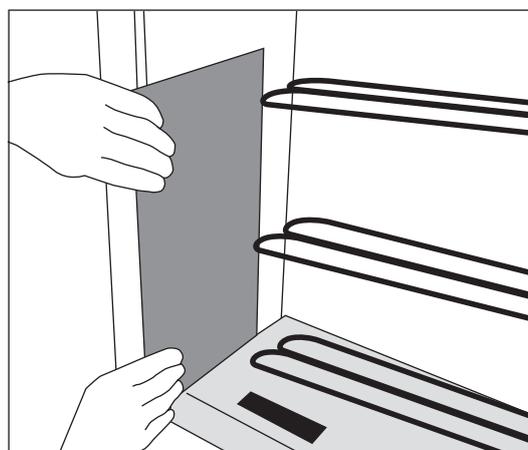
MEMO

- 蓄熱体が割れている場合や、濡れている場合は機器に組み込まないでください。

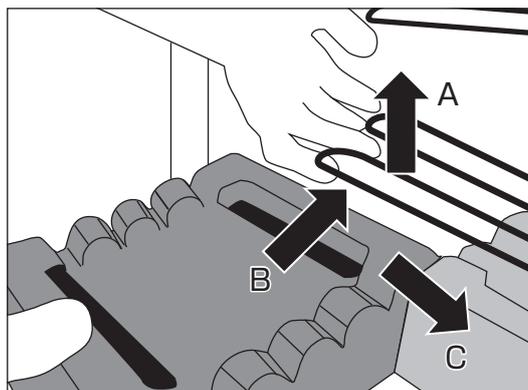


7-4-3. 蓄熱体の組み込み

- ①左側の断熱材が破損しないようにするために、付属の対流板を一時的に当てておきます。



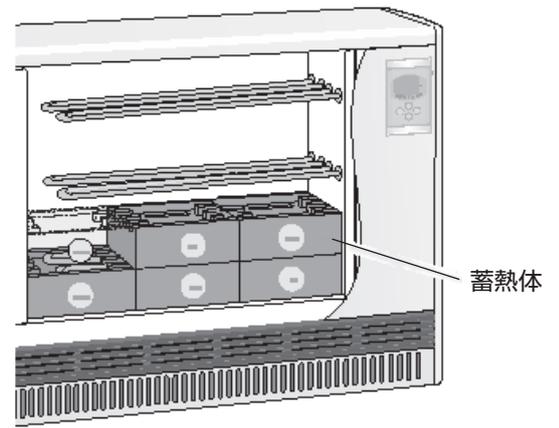
- ②ヒーターを「A」の方向に最小限の高さで持ち上げます。
- ③蓄熱体を「B」の方向に背面の断熱材に接するまで押し込みます。
- ④蓄熱体を「C」の方向に蓄熱体、または断熱材に接するまでずらします。



おねがい

- 断熱材のカバーを破らないようにしてください。
- 蓄熱体間に隙間が生じないように右側に詰めてください。

⑤下の段から順番に蓄熱体を組み込みます。

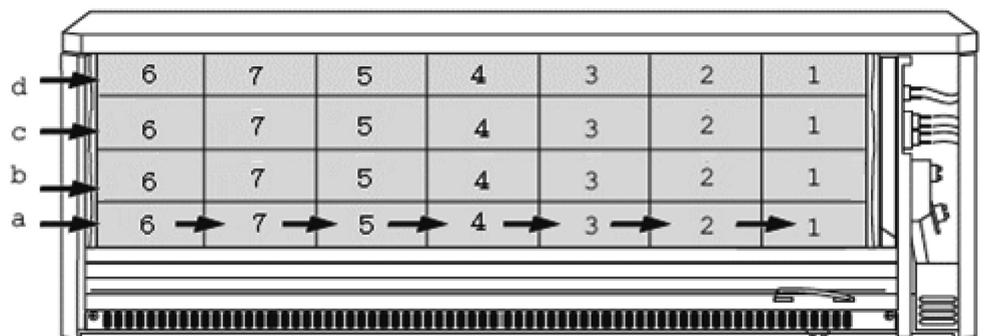


⑥右端から左方向に向けて順番に蓄熱体を組み込みます。

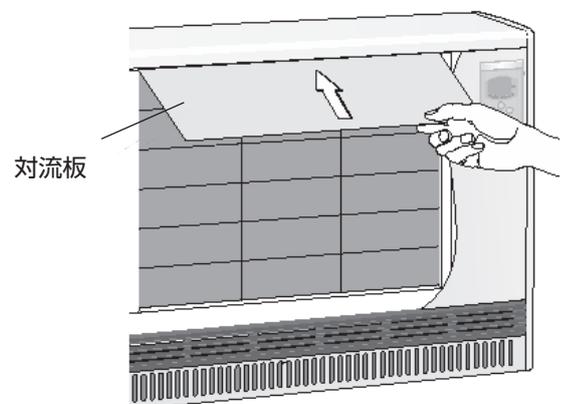
左端から2番目の蓄熱体を組み込む前に左端の蓄熱体を組み込みます。

MEMO

○横方向の組み込み図を下記に示します。



⑦蓄熱体を全て組み込んだ後、左端から対流板を引抜き、蓄熱体の最上部に差し込みます。



おねがい

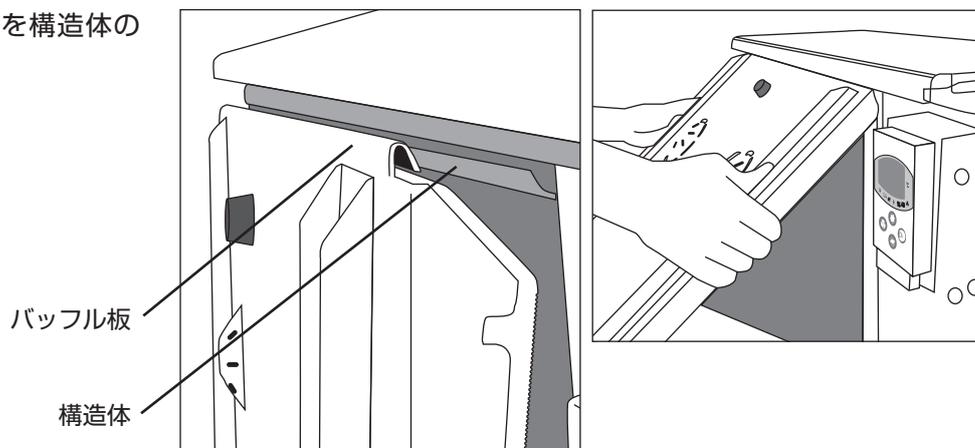
○全ての蓄熱体を組み込み後、再度、機器が床面に対して水平であることを確認してください。

7-5. 機器外装の組み付け

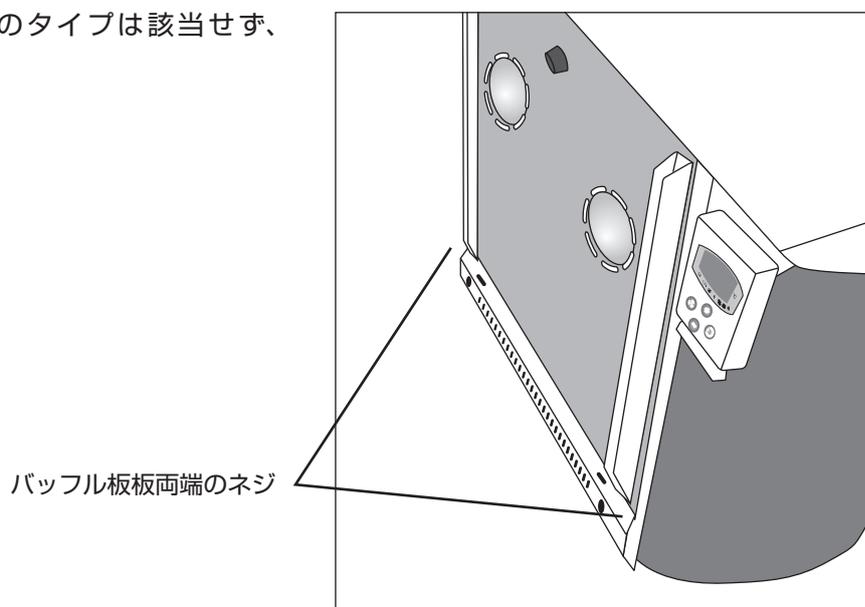
7-5-1. 内蔵部品の取り付け

(1) バッフル板

- ① バッフル板上部の引掛け部分を構造体の所定の位置に引掛けます。

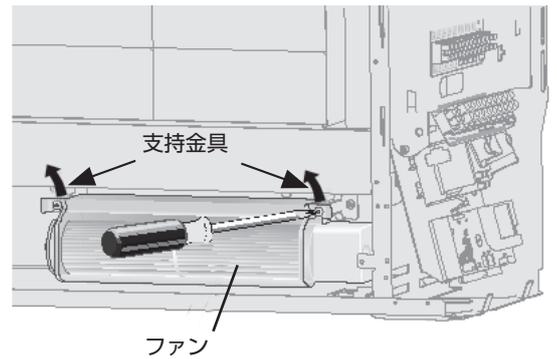


- ② バッフル板中央のネジ (3.5kW以下のタイプは該当せず、5kWタイプは2本) を締め付けます。
- ③ バッフル板両端のネジを締め付けます。



(2) ファンの清掃

- ①蓄熱体の欠片等が落ちないように養生に使用した、プラスチックシートを取り出します。
- ②ファンを固定している両端の支持金具のネジ各1本をプラスドライバーで緩めます。(外す必要はありません。)
- ③ファンを矢印の方向に持ち上げ、支持金具から外します。
- ④ファンを外した後、ファンがスムーズに回転するか、ファンの回転に歪みがないか確認します。
- ⑤ファンのケーシング内に蓄熱体の欠片が入ってしまった場合は、除去してください。
- ⑥ファンを支持金具に載せ、ファンの配線がファンに接触しないようにネジで固定します。
- ⑦掃除機等を使用してファン周囲を清掃してください。

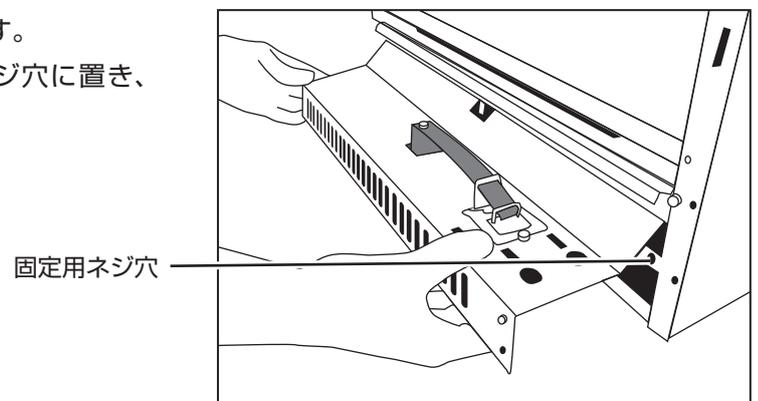


おねがい

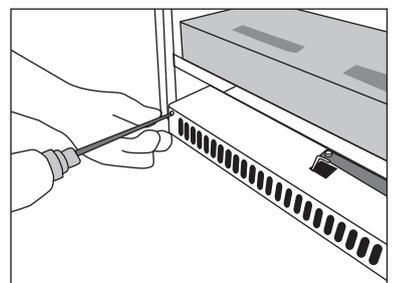
- ファンが床に対して水平になるように固定してください。ファンを傾けて設置すると異音や、ファンの寿命が短くなる可能性があります。
- ネジを締付け過ぎないでください。ネジを締付け過ぎると熱膨張により異音が発生する場合があります。
- 機器の下面についているプラスチックの板は、共振防止用の部品ですので外さないでください。

(3) デバイドケースの固定

- ①デバイドケースの上部を機器内部の突起に置きます。
- ②デバイドケース前部をデバイドケース固定用ネジ穴に置き、ネジ穴を合わせます。

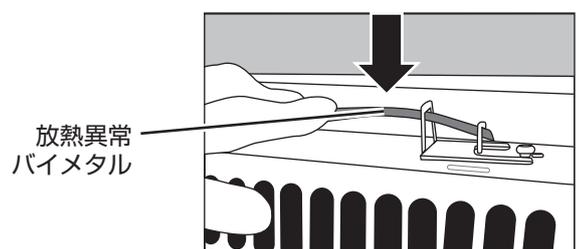


- ③デバイドケース両端をM4×8ネジ2本で内部配線を挟み込まないように固定します。



おねがい

- ネジを締めすぎないでください。熱膨張により音が発生、ネジ山が破損する等の可能性があります。
- ④放熱異常バイメタルを下に押し、ダンパーの開閉がスムーズに行なえることを確認します。



7-5-2. 外装パネルの取付け

(1) 右面パネル、左面パネル

①矢印の方向から機器下部の突起に、右面パネル下部の穴を差し込みます。



突起

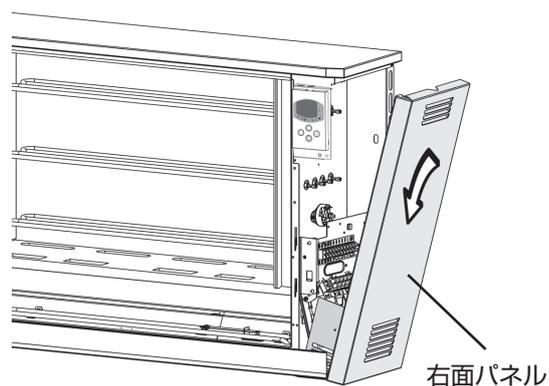
②上記の穴から突起が外れないように、天板パネルに右面パネルを引っ掛けます。

③右面パネルを前から後にずらして固定します。

④前面パネルを取り付けた後、前面パネル右下の右面パネル固定用ネジ穴をM4×8ネジと歯付座金で止めて、内部配線を挟み込まないよう右面パネルを固定します。

⑤左面パネルも同様に取付けてください。

⑥左面パネルは、取付け後、背面側上部をM4×8ネジと歯付座金で固定します。

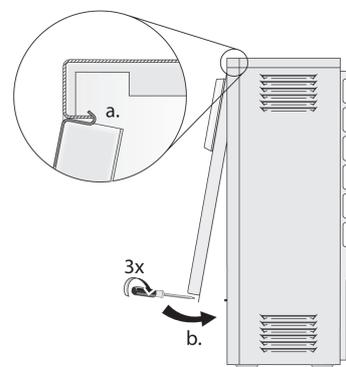


(2) 前面パネル

①天板パネルの図「a」の部分に前面パネルを引っ掛けます。

②天板パネルを矢印「b」の方向に押します。

③前面パネル固定用ネジ穴2ヶ所をM4×8ネジで固定します。
右側の前面パネル固定用ネジ穴には、歯付座金も使用します。

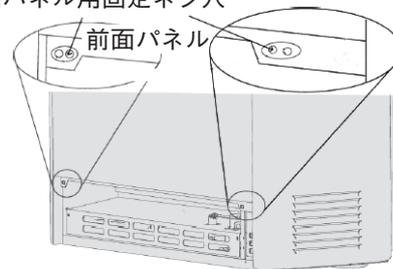


🔧 おねがい

○天板パネルと前面パネルの間に隙間ができないように注意してください。

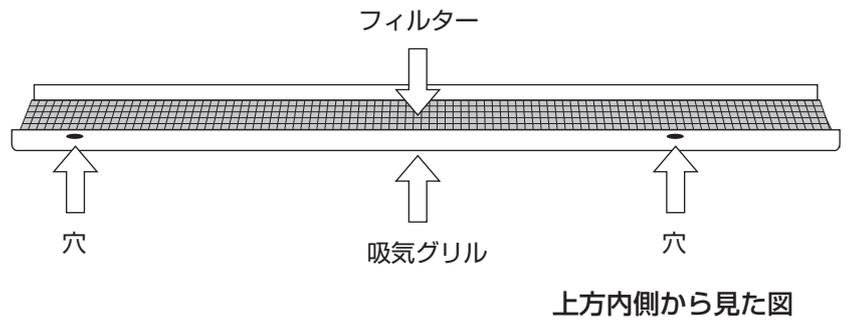
○側面パネルとの間に大きい隙間ができる場合は、バッフル板を一度外し、取り付け直してから、前面パネルを再度取付けてください。

前面パネル用固定ネジ穴



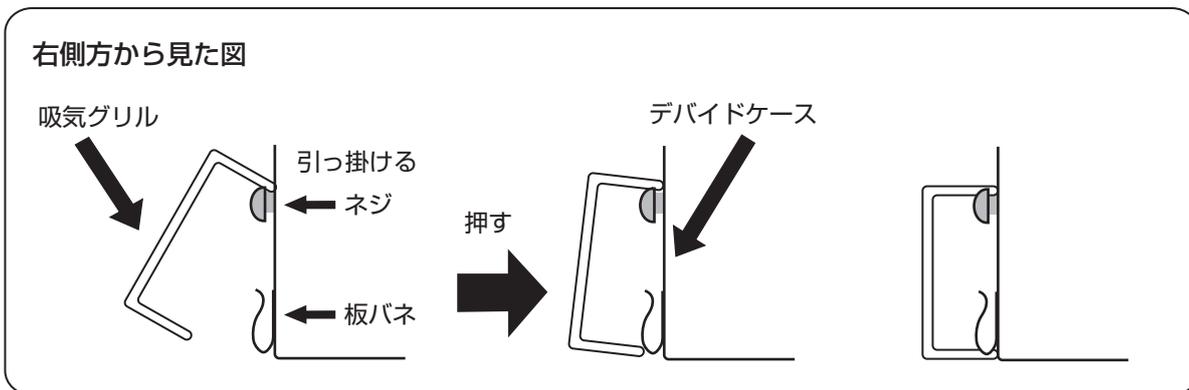
(3) 吸気グリル、吹出グリル

①吸気グリルの内側にフィルターを入れます。

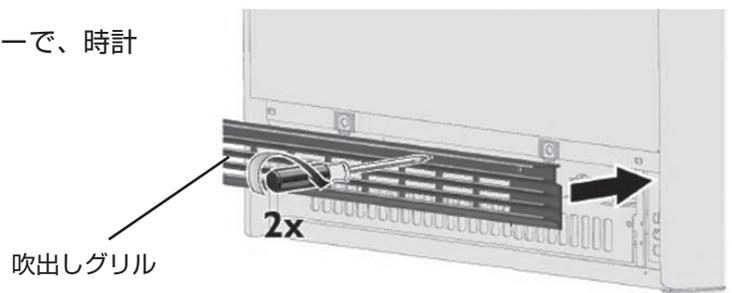


②デバイドケースのネジに吸気グリルの上側の穴を引掛けます。

③吸気グリルの下端を機器下部の板バネに押し付けて固定します。



④吹出グリル固定ネジ (2ヶ所) をプラスドライバーで、時計回りに半回転締め固定します。

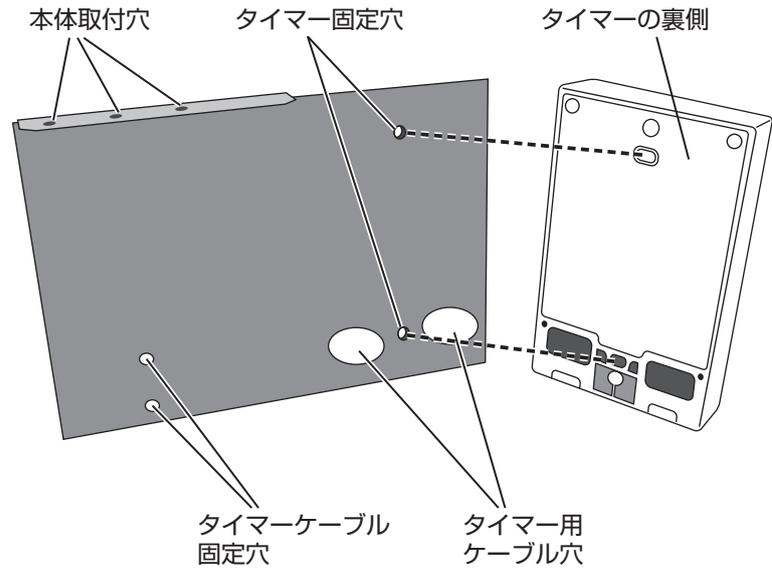


7-6. タイマーセットの組み付け

7-6-1. 部品の確認

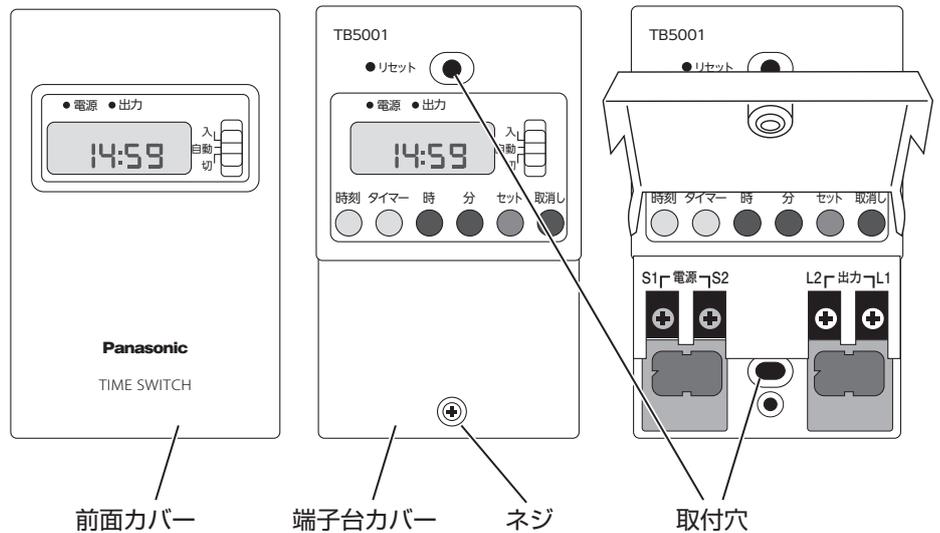
①部品を確認します。

- ・タイマー 1 個
- ・タイマー取付金具 1 個
- ・インシュロックタイ 1 本
- ・タイマー固定用ネジ 2 本
- ・金具固定用平座付ネジ 2 本
- ・タイマー用ケーブル 2 芯, 2 本
(機器接続済み)



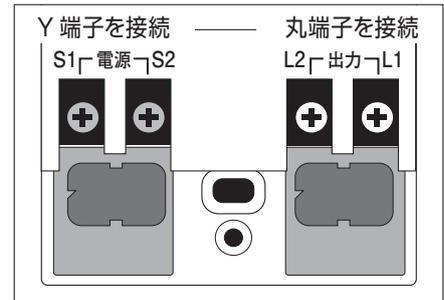
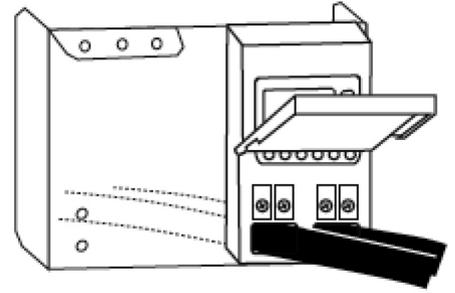
7-6-2. タイマーをタイマー取付金具に固定

- ①タイマーの前面カバーを手前に引いて外します。
- ②タイマーの端子台カバーを固定しているネジをプラスドライバーで外します。
- ③タイマーの端子台カバーの下を手前に引いて開きます。
- ④上下の取付穴にそれぞれタイマー固定用ネジを差込み、タイマーをタイマー固定金具に固定します。

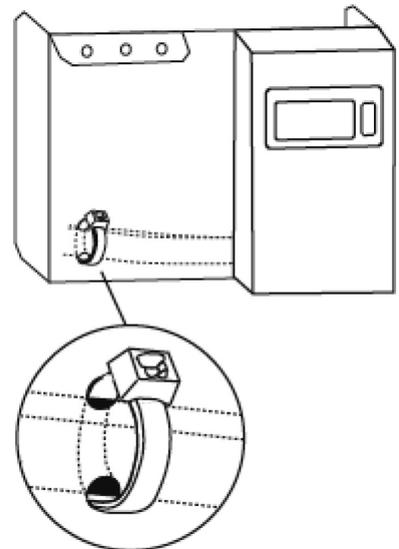


7-6-3. タイマーに配線を接続

- ①機器に接続済みの100V用ケーブル(100Vラベル付、Y端子接続)をタイマー用ケーブル穴の左側に背面側から前面に向かって通します。
- ②機器に接続済みの200V用ケーブル(200Vラベル付、丸端子接続)をタイマー用ケーブル穴の右側に背面側から前面に向かって通します。
- ③タイマーの電源側端子「S1」、「S2」に、100V用ケーブルを接続します。
- ④タイマーの出力側端子「L1」、「L2」に、200V用ケーブルを接続します。

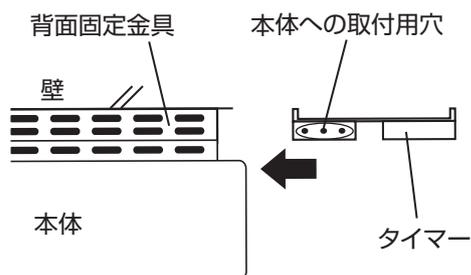


- ⑤タイマーケーブル固定用穴2ヶ所にインシュロックタイを通して、100V用ケーブル、及び200V用ケーブルをタイマー取付金具に固定します。

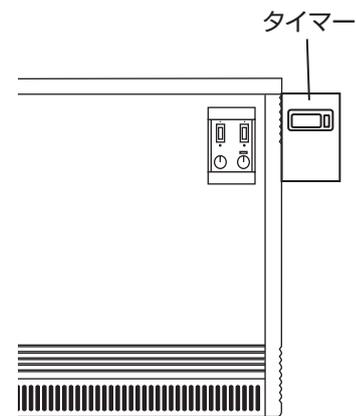


- ⑥背面固定金具の下にタイマー取付け金具を差込み、本体への取付用穴と背面固定金具のスリットを合わせます。

- ⑦背面固定金具側から金具固定用平座付ネジ2本を、本体への取付用穴に合わせて締め付けます。(本体への取付用穴3個のうち、任意の2個の穴で固定します。)



真上から見た図 (設置前)



正面から見た図 (設置後)

8. 試運転の手順

お客様への引き渡し前に必ず試運転を行なってください。

試運転後は、必ず検査記録、保証書、及び保証書(写)に必要事項を記入してください。

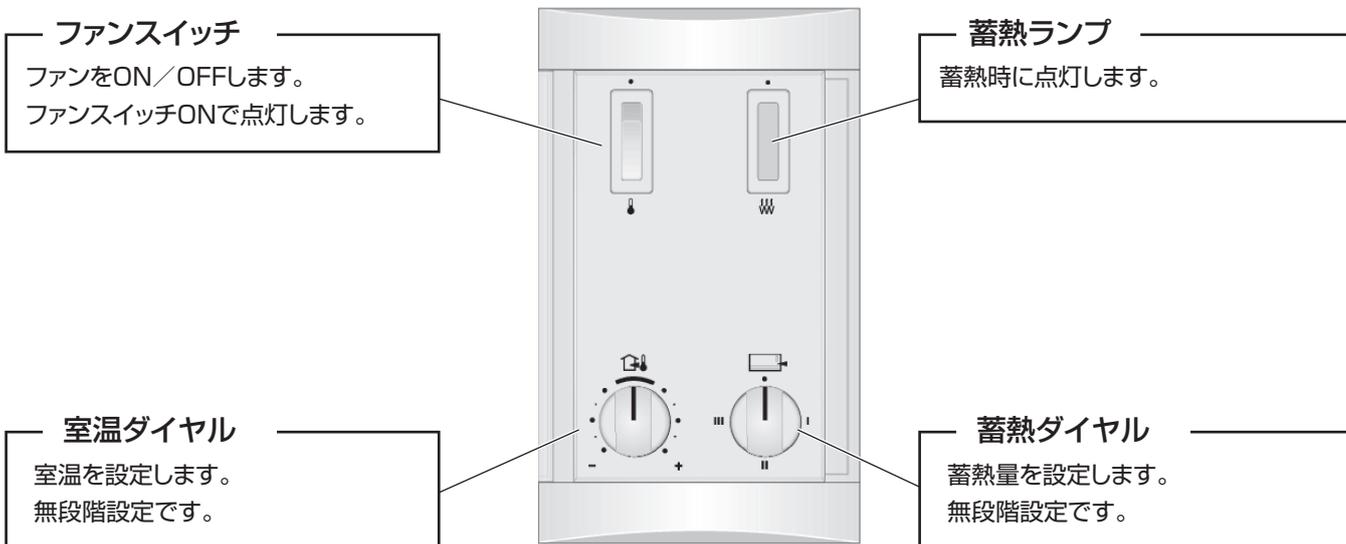
(1) 試運転

シーズンセンサーを接続している場合の試運転

※外気温度が高い場合はシーズンセンサー、または通信ケーブルを外さないで蓄熱動作を確認できません。



端子台「W1」、「⊥W2」に接続したシーズンセンサー、または「W4」、「⊥W5」に接続した通信ケーブルを外してから試運転をしてください。



- ①100Vの電源ブレーカを「入」(ON)にして機器に電気を供給してください。
- ②室温ダイヤルを最大に設定してください。
- ③ファンスイッチを「I」にして、ファンスイッチが点灯し、ファンが回転して吹出グリルから風が出ることを確認してください。
- ④ファンスイッチを「O」にして、ファンスイッチが消灯し、ファンが停止することを確認してください。
- ⑤室温ダイヤルを最小に設定してください。
- ⑥200Vの専用ブレーカを「入」(ON)にして機器に電気を供給してください。
LJTシリーズの場合は、タイマーのスイッチを「入」にしてください。
- ⑦タイマーの現在時刻、及び通電時間の設定をP10. 4-4、P11. 4-5を参照して実施します。
例) 深夜時間(23:00~7:00)の場合
入・・・23:05切・・・6:55
- ⑧P. 7「3-2項」を参照して、蓄熱ダイヤルを「Ⅲ」にし電流値を計測します。



○電流値が確認できない場合は、②③項を実施してファンを回転させてください。

- ⑨LJTシリーズの場合は、一度、タイマーのスイッチを「切」にした後に、「自動」にしてください。



- ⑩蓄熱ダイヤルを「●」にして、専用ブレーカを「切」(OFF)にします。その後、電源端子とアース間の絶縁抵抗を確認します。

(2)電流値と抵抗値表

	電圧 (V)	総消費電力(kW)	単相電流値(A)	三相電流値(A)	単相抵抗値(Ω)	三相抵抗値(Ω)
WSP-350LJ WSP-350LJT	200	3.5	17.5	10.1	11.4	22.8
WSP-500LJ WSP-500LJT		5.0	25.0	14.4	8.0	16.0

おねがい

- 電流値が許容範囲に当てはまらない場合は、各ヒーターの片側の端子を外し、ヒーターの抵抗値を確認します。抵抗値が±10%の許容範囲に当てはまらない場合は、ヒーターが断線、あるいは短絡の可能性がありますので、日本スティーベル(株)まで電話でご連絡ください。
- 試運転終了後は、必ずファンをOFFし、追焚操作を終了してください。

(3)絶縁抵抗

電気用品安全法に基づく技術基準により、機器の絶縁抵抗は1MΩ以上とされております。

使用開始時や長期間放置された後再使用する場合に、蓄熱体が吸湿したことにより、絶縁抵抗が減少し、運転開始後数時間で漏電ブレーカが誤作動する場合があります。このような場合は結線に誤りがなく、かつ絶縁抵抗が回復していることを確認の上、再度通電を行なってください。漏電ブレーカが即時に作動する場合は、配線、または漏電ブレーカ等に問題がある可能性があります。日本スティーベル(株)まで電話でご連絡ください。

ご注意

- 絶縁抵抗を計測する際は、必ず200V、100Vの電源が通電されていない状態で実施してください。

(4) 検査記録

お客様名			
検査会社名			
検査者名			
検査日			
検査項目	検査結果	摘要	参照ページ
機器の絶縁抵抗		絶縁抵抗値を記載	P. 42 8
ブレーカの定格電流値		ブレーカの 定格電流値を記載	P. 42 8
現在時刻の設定		チェックのみ	P. 5 3-1-1
通電開始時間設定		設定時間を記載	P. 6 3-1-2
通電時間設定		設定時間を記載	P. 6 3-1-2
ヒーターの電流値		電流値を記載	P. 42 8
ファンの動作		チェックのみ	P. 8 3-3-1
機器の離隔距離の確保		チェックのみ	P. 16 1
ジョイントボックスの位置		チェックのみ	P. 23 6-1
壁の補強		チェックのみ	P. 23 6-1
機器の壁固定		チェックのみ	P. 32 7-3
床の補強		チェックのみ	P. 23 6-1
機器の床固定		チェックのみ	P. 32 7-3
機器の水平設置		チェックのみ	P. 34 7-4
機器の外観		チェックのみ	_____
備考			

保証書

本書は、下記〈無料修理規定〉に基づいて下記型名の機器の無料修理を行なうことをお約束するものです。当該機器以外の機器類は、修理の対象といたしません。お取り付け日から1年以内に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、日本スティーベル(株)に修理をご依頼ください。

お客様	フリガナ		
	お名前		様
お取扱い店	社名	印	取扱者
	〒 住所		印
	電話() -		
お取り付け日	年	月	日

型名	WSP-350LJ WSP-500LJ WSP-350LJT WSP-500LJT	
製造番号	-	-
保証期間	製品	お取り付け日から1ヶ年

機器はお取り付け日から1ヶ年保証です。

★お客様へ

この保証書をお受け取りになるときは、お取り付け年月日、お取扱い店名、製造番号の記載、並びに取扱者印の捺印があることを確認してください。保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

この保証書は、本書に明示した期間、次の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈無料修理規定〉

- お引渡し仕様の条件で取扱説明書、機器に貼られているラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、表記期間無料修理いたします。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合には、日本スティーベル(株)にご依頼の上、修理をお受けになる時に本書をご提示ください。
「お取り付け日」の記載がない場合、日本スティーベル(株)の出荷記録に基づいて、出荷日を「お取り付け日」として起算します。
- ご転居等、お取り付け場所を移動する場合は、予め日本スティーベル(株)にご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
(A) 修理、または交換を必要とする不具合部品を交換せずに継続して使用した場合。
(B) 使用上の不注意、過失による不具合、及び不当な修理や、改造による故障や損傷の場合。
(C) お取り付け後の移設、及び取付説明書に基づいたお取り付けがなされていなかったことに起因する故障、及び損傷の場合。
(D) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害、腐食性ガス等の有害ガス、塩害、異常電圧、ねずみ、鳥、くも、昆虫類の侵入、及びその他の外部要因による故障、及び損傷の場合。
(E) 指定外の電源(電圧・周波数)で使用した場合の故障や損傷。
(F) 一般の建物以外(例えば車輻・船舶・粉塵やガスの浮遊する施設)等で使用された場合の故障や損傷。
(G) 砂、さび、ごみ、及びほこり等による不具合、故障、損傷があった場合。
(H) 消耗部品の交換、及び保守等の費用。
(I) 本書の提示が無い場合、お客様名、お取扱い店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
- 以下の場合に生じた費用、及び代金は、本書による無料保証の対象にはなりません。
(A) 理由の如何を問わず、機器設置後に、不適切な設定により増加した電気代。
(B) 機器を設置したことによって生じた使用場所とその周辺の変色、変形、異音等の補修費用。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社

STIEBEL ELTRON 日本スティーベル株式会社

TEL:044-540-3203

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町66-2 興和川崎西口ビル8F

ホームページ <http://www.nihonstiebel.co.jp>

■製造者
スティーベルエルトロン

機器の仕様、外観、及び価格は予告なく変更する場合があります。

本書の内容、所在地、電話番号は変更になることがありますので、予めご了承ください。